

新 渡 戸 カ レ ヅ ジ

2024 年 度 活 動 報 告 書



北海道大学 新渡戸カレッジ

目 次

1	副校長メッセージ	1
2	沿革	2
3	組織図	3
4	運営体制	4
5	学部カリキュラム、大学院カリキュラム概要	12
6	行事一覧	14
7	授業概要、行事概要	15
	(1) 学部カリキュラム【授業概要】	15
	(2) 大学院カリキュラム【授業概要】	34
	(3) 行事概要（北大時報）	59
8	入校者数、修了者数、称号授与者数、部局別在籍者数	67
9	主な就職先、修了者進路（2023 年度）	71
10	奨学金支給状況	72
11	留学の状況	73
12	F D 報告	74
13	Nitobe ポートフォリオの活用	76
14	会議の開催状況	77
15	広報資料一覧	81

1 副校長メッセージ

Nitobe College invites you to take a look at our 2024 activities

新渡戸カレッジ副校長 LA FAY Michelle

For the past year, I have been the Deputy Vice-Principal of Nitobe College, and as of April 2025, I have the honor of becoming the Vice-Principal of Nitobe College. When I was a graduate student at Hokkaido University, I focused on Uchimura Kanzo and Protestant Christianity in Japan. It goes without saying that Nitobe Inazo was a familiar figure in my research, as he and Uchimura Kanzo were life-long friends along with Miyabe Kingo. Nitobe College was established in 2013, so it was still a fledgling program when I joined the faculty of Hokkaido University in 2014. At that time, I began to work with Nitobe College and deepened my study of Nitobe Inazo.

As my students would tell you, one of my keywords is “connections.” Nitobe Inazo’s close connection with education can be seen through his establishment of the En-Yu Night School and his interest in women’s education. His connection with peace can be found in his Quaker faith. He was a global leader thanks to his work in establishing connections between many people and countries, of course, including my own country, the US.

Nitobe College offers both graduate and undergraduate programs, providing unique experiences within each curriculum. In the graduate curriculum, international and Japanese graduate students navigate the program in English, utilizing critical thinking to develop their problem-finding and problem-solving skills. Students in the undergraduate curriculum hone their leadership, communication, and teamwork skills. Mentors and Fellows, many of whom are alumni, use their expertise and experience in industry and research to guide our students through the programs.

Through Nitobe College, we can connect the ideals of Sapporo Agricultural College with the current Hokkaido University to make a space for students to create their own future. And now, I would like to invite you to make your own connection with us and see how our students are working toward becoming global citizens and global leaders.



2 新渡戸カレッジの沿革

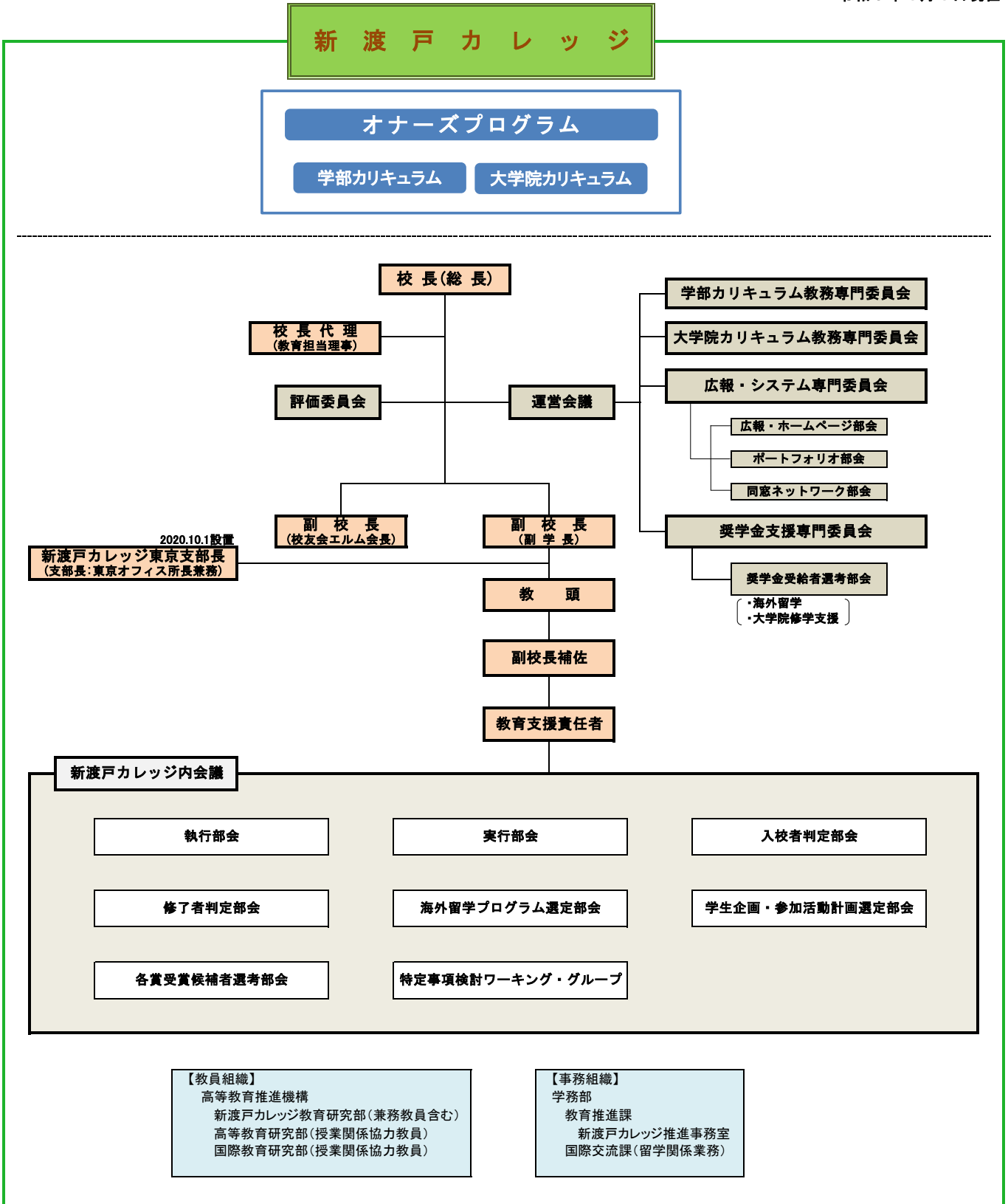
平成 25 年（2013）4 月	北海道大学に学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を開校
平成 27 年（2015）4 月	北海道大学に大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を開校
平成 28 年（2016）3 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」から第 1 期生 15 名が修了
平成 29 年（2017）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を「基礎プログラム」と「オナーズプログラム」の 2 段階のプログラムに変更 大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」に博士課程学生対象の上級プログラムを開設
平成 31 年（2019）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」と大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を統合し、新生「新渡戸カレッジ」（学部教育コース・大学院教育コース）を設立 新渡戸スクール上級プログラムの終了 現代日本学プログラム課程学生（外国人留学生）の学部教育コースへの受入れ開始。
令和 6 年（2024）4 月	新渡戸カレッジの体制を刷新 新渡戸カレッジを「オナーズプログラム」のみとし、「学部教育コース」を「学部カリキュラム」、「大学院教育コース」を「大学院カリキュラム」に改称 「基礎プログラム」は、「オナーズプログラム」入校への準備期間としたうえで、学部カリキュラムと大学院カリキュラムの連携を強化



令和 6 年 10 月 5 日（土）新渡戸カレッジ（学部・大学院合同）入校式 校長挨拶

3 新渡戸カレッジ組織図

令和6年4月1日現在



4 新渡戸カレッジ運営体制（令和6年度）

（1）役職員

No.	氏 名	役 職 ・ 所 属 等
1	寶 金 清 博	校長・総長
2	山 本 文 彦	校長代理・理事・副学長・最高教育責任者
3	弐 和 順	副校長・副学長・文学研究院教授
4	杉 江 和 男	副校長・校友会エルム会長、招へい教員（客員教授）
5	LA FAY Michelle	教頭・文学研究院教授
6	谷 博 文	副校長補佐・工学研究院准教授

（2）運営会議委員

No.	職 名	氏 名	任 期 等
1	校長（総長）：議長	寶 金 清 博	R2.10.1～
2	校長代理（総長が指名する理事）	山 本 文 彦	R6.4.1～R8.3.31
3	新渡戸カレッジ副校長	弐 和 順	R4.4.1～R7.3.31
4	新渡戸カレッジ副校長（同窓生）	杉 江 和 男	R 元.6.15～
5	新渡戸カレッジ教頭	LA FAY Michelle	R6.4.1～R8.3.31
6	文学部長・文学院長	川 端 康 弘	R6.4.1～R8.3.31
7	教育学部長・教育学院長	辻 智 子	R6.4.1～R8.3.31
8	法学部長・法学研究科長	尾 崎 一 郎 佐々木 雅 寿	R4.12.15～R6.12.14 R6.12.15～R8.3.31
9	経済学部長・経済学院長	久保田 肇	R4.4.1～R6.3.31
10	理学部長	網 塚 浩	R5.4.1～R7.3.31
11	医学部長・医学院長	畠 山 鎮 次	R5.4.1～R7.3.31
12	歯学部長・歯学院長	網 塚 憲 生	R4.4.1～R6.3.31
13	薬学部長	木 原 章 雄	R5.4.1～R7.3.31
14	工学部長・工学院院长	幅 崎 浩 樹	R5.4.1～R7.3.31
15	農学部長・農学院長	野 口 伸	R5.4.1～R7.3.31
16	獣医学部長	滝 口 満 喜	R5.4.1～R7.3.31
17	水産学部長・水産科学院長	都 木 靖 彰	R4.4.1～R6.3.31
18	環境科学院長	谷 本 陽 一	R3.10.1～R7.9.30
19	理学院長	永 井 隆 哉	R5.4.1～R7.3.31
20	生命科学院長	佐 藤 美 洋	R5.4.1～R7.3.31
21	国際広報メディア・観光学院長	奥 聡	R5.4.1～R7.3.31

22	保健科学院長	矢 野 理 香	R5.4.1～R7.3.31
23	工学院院长	泉 典 洋	R5.4.1～R7.3.31
24	総合化学院長	忠 永 清 治	R6.4.1～R8.3.31
25	獣医学院長	石 塚 真由美	R5.4.1～R7.3.31
26	医理工学院長	久 下 裕 司	R5.4.1～R7.3.31
27	国際感染症学院長	堀 内 基 広	R5.4.1～R7.3.31
28	国際食資源学院長	曾 根 輝 雄	R5.4.1～R7.3.31
29	情報科学院長	近 野 敦	R6.4.1～R8.3.31
30	公共政策学教育部長	山 崎 幹 根	R6.4.1～R7.3.31
31	高等教育推進機構全学教育部長	野 村 益 寛	R5.4.1～
32	高等教育推進機構総合教育部長	鈴 木 久 男	R2.10.20～
33	高等教育推進機構国際教育研究部長	鄭 惠 先	R5.4.1～
34	同窓生	高 杉 重 夫	R3.4.1～R5.3.31
35	同窓生	石 川 裕 一	R5.4.1～R7.3.31
36	同窓生	戸 田 守 道	R5.4.1～R7.3.31
37	学務部長	平 田 公 明	R4.4.1～
38	その他総長が認めた者	谷 博 文	R5.4.1～R7.3.31

(3) 学部カリキュラム教務専門委員会

No.	所 属	役 職	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ	副校長	弐 和 順	職指定
2	新渡戸カレッジ	教頭	LA FAY Michelle	職指定(委員長)
3	外国語教育センター	センター長	濱 井 祐三子	職指定
4	文学部	教授	谷 本 晃 久	R6.4.1～R8.3.31
5	教育学部	教授	阿 部 匡 樹	R6.4.1～R8.3.31
6	法学部	教授	齊 藤 正 彰	R6.4.1～R8.3.31
7	経済学部	准教授	宇 田 忠 司	R5.4.1～R7.3.31
8	理学部	教授	鈴 木 孝 紀	R5.4.1～R7.3.31
9	医学部	教授	高 橋 誠	R4.4.1～R6.3.31
10	歯学部	教授	山 崎 裕	R5.4.1～R7.3.31
11	薬学部	講師	柏 木 仁	R6.4.1～R8.3.31
12	工学部	教授	浅 野 泰 寛	R6.4.1～R8.3.31
13	農学部	教授	小 関 成 樹	R5.4.1～R7.3.31
14	獣医学部	教授	池 中 良 徳	R6.4.1～R8.3.31

15	水産学部	准教授	BOWER John Richard	R5.4.1～R7.3.31
16	高等教育推進機構	全学教育部長	野 村 益 寛	職指定
17	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定
18	学務部	教育推進課長	土 本 光 一	職指定
19	学務部	国際交流課長	菅 原 暢 廣	職指定
20	医学部保健学科	教授	澤 村 大 輔	R6.4.1～R8.3.31

(4) 大学院カリキュラム教務専門委員会

No.	所 属	職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ	副校長	舩 和 順	職指定(委員長)
2	新渡戸カレッジ	教頭	LA FAY Michelle	職指定
3	法学研究科	教授	空 井 護	R6.4.1～R7.3.31
4	水産科学院	教授	栗 原 秀 幸	R6.4.1～R7.3.31
5	環境科学院	准教授	亀 山 宗 彦	R5.4.1～R7.3.31
6	理学院	教授	根 本 幸 児	R5.4.1～R7.3.31
7	農学院	教授	近 藤 巧	R5.4.1～R7.3.31
8	生命科学院	教授	小 川 宏 人	R5.4.1～R7.3.31
9	教育学院	教授	北 村 嘉 恵	R6.4.1～R7.3.31
10	国際広報メディア・観光学院	准教授	原 田 真 見	R5.4.1～R7.3.31
11	保健科学院	教授	池 田 敦 子	R5.4.1～R7.3.31
12	工学院	教授	宮 森 保 紀	R5.4.1～R7.3.31
13	総合化学院	教授	向 井 紳	R5.4.1～R7.3.31
14	経済学院	准教授	早 川 仁	R5.4.1～R7.3.31
15	医学院	教授	藤 山 文 乃	R5.4.1～R7.3.31
16	医理工学院	教授	石 川 正 純	R5.4.1～R7.3.31
17	国際食資源学院	准教授	加 藤 知 道	R5.4.1～R7.3.31
18	文学院	教授	山 口 未花子	R6.4.1～R7.3.31
19	情報科学院	教授	田 中 章	R6.4.1～R7.3.31
20	公共政策学教育部	准教授	五十嵐 洋 介	R6.4.1～R7.3.31
21	学務部教育推進課	課長	土 本 光 一	職指定
22	新渡戸カレッジ	副校長補佐	谷 博 文	R6.4.1～R8.3.31
23	新渡戸カレッジ	教育支援責任者	伊 藤 秀 臣	R6.4.1～R8.3.31

(5) 広報・システム専門委員会

No.	所 属・職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ副校長	弐 和 順	職指定
2	新渡戸カレッジ教頭	LA FAY Michelle	職指定（委員長）
3	新渡戸カレッジ副校長補佐	谷 博 文	R5.4.1～R7.3.31
4	高等教育推進機構准教授	野 澤 俊 介	R5.4.1～R7.3.31
5	高等教育推進機構特任准教授	内 田 治 子	R7.1.1～R7.3.31
7	高等教育推進機構講師	山 畑 倫 志	R5.4.1～R7.3.31
8	学務部教育推進課長	土 本 光 一	職指定

(6) 奨学金支援専門委員会

No.	所 属・職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ副校長	弐 和 順	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ教頭	LA FAY Michelle	職指定
3	教育学部教授	阿 部 匡 樹	学部教育コース教務委員会委員
4	水産学部准教授	BOWER John Richard	学部教育コース教務委員会委員
5	獣医学部教授	池 中 良 徳	学部教育コース教務委員会委員
6	国際広報メディア・ 観光学院准教授	原 田 真 見	大学院教育コース教務委員会委員
7	高等教育推進機構 国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定
8	学務部教育推進課長	土 本 光 一	職指定
9	学務部国際交流課長	川 崎 直	職指定

(7) 評価委員会

No.	所 属	役 職 名	氏 名	任 期 等
1	学外委員	フェロー	多 田 幸 雄	R6.4.1～R8.3.31
2	学外委員	フェロー	森 順 子	R6.4.1～R8.3.31
3	学外委員	フェロー・メンター	萩 野 泉	R6.4.1～R8.3.31
4	学外委員	メンター	佐 伯 百合子	R6.4.1～R8.3.31
5	新渡戸カレッジ	副校長	弐 和 順	職指定
6	新渡戸カレッジ	教頭	LA FAY Michelle	職指定
7	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定
8	工学研究院 (新渡戸カレッジ)	准教授 (副校長補佐)	谷 博 文	R6.4.1～R8.3.31

(8) フェロー

No.	氏 名	担当	現職（元職を含む）	卒年等
1	上田 英樹	CDS (統括)	株式会社 テクノラボ 代表取締役社長	S63 教
2	石川 裕一	Fゼミ	(株)ぷらう代表取締役社長 ジョンソンコントロールズ(株)取締役	S54 法
3	伊藤 慎	CDS (統括)	アルジェニクスジャパン株式会社 神経疾患領域 マーケティング部門 アソシエイトディレクター	H15 薬修
4	多田 幸雄	Fゼミ (統括)	株式会社 双日総合研究所 相談役 長崎大学経済学部客員教授	S51 農
5	大友 俊彦	Fゼミ	中外製薬株式会社 オンコロジーライフサイクルマネジメント部長	H4 獣
6	廣重 勝彦	Fゼミ	北海道大学東京オフィス副所長 (ファンドレイジング マネージャー) 一般社団法人日本社債調査センター 代表理事	S57 法
7	萩野 泉	Fゼミ	株式会社 電通クロスブレイン 執行役員 CGO (Chief Growth Officer)	H22 薬 H27 博・保健科学
8	森 順子	CDS	株式会社 ハッピーアロー代表取締役	H28 教修
9	三村 直己	CDS	フリーコンサルタント	S57 理
10	日野 峰子	CDS	会議通訳者	S59 文
11	石川 めぐみ	Fゼミ	C J コミュニケーション代表	H2 文
12	村山 和佳	CDS	株式会社 ズコーシャ 技術部次長	H7 農

(注) 「Fゼミ」=フェロゼミ、「CDS」=セルフキャリア発展ゼミ

(9) メンター

No.	氏 名	現職（元職を含む）	卒年等
1	中 原 拓	メタジェンセラピューティクス株式会社 代表取締役社長	理・D
2	佐 伯 百合子	株式会社 資生堂 みらい開発研究所 R&D 戦略部 研究員	生命・M
3	藤 井 幸 大	サンマルコ食品株式会社 代表取締役社長	カリフォルニア州アカ デミーオブ・アート 大学・B
4	和 田 義 明	前衆議院議員	早稲田・B
5	中 島 徹	15th Rock Spirete 株式会社 Founder & General Partner 代表取締役	工・M
6	石 川 憲 一	デンタルアロー株式会社 相談役	工・M
7	Eric Ofosu-Twum	株式会社 日立製作所 研究開発グループ 研究員	総化・D
8	萩 野 泉	株式会社 電通クロスブレイン 執行役員 CGO (Chief Growth Officer)	保健・D
9	黒 田 垂 歩	ブラックフィールドズ コンサルティング CEO	薬・D
10	佐 賀 美 紅	株式会社 日立製作所 鉄道ビジネスユニット人事総務本部 人事企画部タレントマネジメントグループ	文・M

(10) 執行部会構成員

No.	氏 名	職 名
1	弐 和 順	副校長、副学長、文学研究院教授
2	LA FAY Michelle	教頭、文学研究院教授
3	谷 博 文	副校長補佐、工学研究院准教授
4	土 本 光 一	教育推進課長
5	佐 藤 浩 司	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室長
6	石 川 由香里	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室係長

(11) 学部実行部会構成員

No.	氏 名	担当（所属等）
1	弐 和 順	副校長、副学長、大学院文学研究院教授
2	LA FAY Michelle	教頭、文学研究院教授
3	佐々木 啓	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施（大学院文学研究院特任教授）
4	亀 野 淳	全学教育科目（大学と社会）・学部カリキュラム キャリア支援（キャリアセンター長 高等教育推進機構 教授）
5	江 本 理 恵	学部カリキュラム 新渡戸ポートフォリオ（高等教育推進機構 教授）
6	シュルーター 智子	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施、全学教育科目 導入科目(北大での学び)実施（高等教育推進機構 准教授 ～R6.5.31）
7	内 田 治 子	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施、全学教育科目 導入科目(北大での学び)実施（高等教育推進機構 准教授 R7.1.1～）
8	野 澤 俊 介	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 准教授）
9	肖 蘭	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施・海外留学（高等教育推進機構 講師）
10	山 畑 倫 志	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 講師）
11	畑 中 貴 美	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構 特任講師）
12	田 中 孝 平	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施（高等教育推進機構助教）
13	鄭 漢 模	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施（高等教育推進機構助教）
14	川 谷 維 摩	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構 特任助教 R6.11.1～）
15	川 崎 直	学務部国際交流課長
16	内 田 めぐみ	学務部国際交流課長補佐
17	佐 藤 浩 司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 室長
18	石 川 由香里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 係長
19	石 川 智 子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 特定専門職員
20	笹 谷 幸 代	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 特定専門職員（R6.5.1～）
21	谷地元 志 織	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 事務補佐員（～R6.5.31）
22	小 坂 さつき	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 事務補佐員（R6.6.1～）

(12) 大学院実行部会構成員

No.	氏 名	所属等
1	弐 和 順	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
2	谷 博 文	副校長補佐（工学研究院准教授）
3	伊 藤 秀 臣	教育支援責任者（理学研究院准教授）
4	LOMAEVA Marina	特任助教（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
5	WHITFIELD Dale Le	特任助教（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
6	佐 藤 浩 司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 室長
7	石 川 由香里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 係長
8	五十嵐 麻 里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 特定専門職員
9	高 橋 悦 子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 事務補佐員（～R6.5.31）
10	碓 井 まり子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 事務補佐員（R6.6.1～）

(13) 大学院カリキュラム授業担当教員

No.	氏 名	ターム	役 職 ・ 所 属 等
1	グローバル実践科目Ⅰ	春	LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
2	グローバル実践科目Ⅱ	夏	岩 崎 晋 弥 地球環境科学研究院 助教
			EDELHEIM Johan Ricard メディア・コミュニケーション研究院 教授
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
3	グローバル実践科目Ⅰ	秋	LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
4	グローバル実践科目Ⅱ	冬	横 田 義 史 経済学研究院 助教
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
5	グローバル発展科目Ⅰ	春	HAZUCHA Branislav 法学研究科教授
			OSPINA Alarcon Ricardo 農学研究院 助教
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
6	グローバル発展科目Ⅱ	夏	橋 本 勝 文 工学研究院 准教授
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
7	グローバル発展科目Ⅰ	秋	BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA 保健科学研究院 准教授
			SCRIMSHAW TRAVIS Cole 理学研究院 助教
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
8	グローバル発展科目Ⅱ	冬	三 浦 篤 志 理学研究院 准教授
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
9	新渡戸カレッジ特別演習	集中	新渡戸カレッジ教育研究部特任助教

(14) 学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室

No.	氏 名	職 名
1	土 本 光 一	教育推進課長
2	宮谷内 洋	教育推進課課長補佐
3	佐 藤 浩 司	事務室長
4	石 川 智 子	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員
5	笹 谷 幸 代	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員 (R6.5.1～)
6	谷地元 志 織	新渡戸カレッジ(学部)担当 事務補佐員 (～R6.5.31)
7	小 坂 さつき	新渡戸カレッジ(学部)担当 事務補佐員 (R6.6.1～)
8	石 川 由香里	新渡戸カレッジ(大学院)担当係長
9	五十嵐 麻 里	新渡戸カレッジ(大学院)担当特定専門職員
10	高 橋 悦 子	新渡戸カレッジ(大学院)担当 事務補佐員 (～R6.5.31)
11	碓 井 まり子	新渡戸カレッジ(大学院)担当 事務補佐員 (R6.6.1～)



令和 6 年 6 月 17 日 新渡戸カレッジメンターフォーラム (大学院)

5 新渡戸カレッジ学部カリキュラム及び大学院カリキュラムの概要

(1) 学部カリキュラム

新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムでは、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）及び新渡戸稲造から学ぶべき精神に基づきつつ、各々の学問分野における専門性を修得しながら、分野横断的な特別教育プログラムでの学びや国際交流の場などを通して、以下に記す5つの力を身につけ、それらを発揮できるグローバルリーダーを育成することを目指している。

【5つの力】

- ① 自己成長力
自律的な個人の確立に向けて、継続的に精励する力
- ② コミュニケーション力
外国語運用能力を含む、高いコミュニケーション力
- ③ 多文化理解力
文化的背景の異なる他者の考えを理解し、尊重する力
- ④ 課題解決力
さまざまな課題に対して、周囲との協働により解決を図る力
- ⑤ 社会的倫理観
社会的役割を認識し、責任感・倫理観をもって行動する力

新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムでは、この目標とするグローバルリーダー像に求められる具体的な能力基準を定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に国際的に通用する新渡戸カレッジの修了証を授与する。



令和6年12月7日 新渡戸カレッジ公開シンポジウム・成果報告会（学部）

(2) 大学院カリキュラム

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムでは、北海道大学のすべての修士課程及び専門職学位課程に在籍する学生を対象に、創造的・批判的思考、リーダーシップ、課題解決・問題発見などを、専門性や文化的背景の異なる学生たちがともに学び実践することを通して、以下に記す「3+1 の力（能力更新力、組織形成力、社会還元力＋専門職倫理）」を身につける。

【3 + 1 の力】

① 能力更新力

社会の変化に応じて、新たに求められる知識を獲得し、自分を成長させていく能力及び創造的・批判的思考を相補的に駆使して計画・実践する能力

② 組織形成力

多様な専門性を有する人々とチームを組織し、高いコミュニケーション力でリーダーシップに貢献することにより、共通の目標に向けて協働し、成果に結びつける能力

③ 社会還元力

社会的役割を認識し、責任感及び倫理観を持って、多様な状況下における課題を的確に把握し、それをより良い方向に解決していく能力

④ 専門職倫理

価値観の多様化する社会における倫理的な問題を敏感に捉えつつ、高度な教育を受けた専門家として社会全体の利益や影響を考え、責任を持って公平・公正な決断を下す能力

また、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの特徴は、次のとおりである。

【4 つの特徴】

① 国際社会の縮図

多様性に対する高い認識を伴ったコミュニケーション能力を磨く。

② 領域横断的学修環境

研究分野の異なる仲間とともに学ぶことで互いの専門的知識を深め合う。

③ アクティブラーニング

徹底したチーム学習により批判的思考、課題解決能力を強化する。

④ 世界的ネットワーク

生涯を通じたキャリアビルディングに資する人脈を構築する。

6 令和6(2024)年度新渡戸カレッジ行事一覧

月	学部カリキュラム行事予定		大学院カリキュラム行事予定	
	日(曜日)	行 事	日(曜日)	行 事
4	4(木)	北海道大学入学式・実行部会(全体)		
	5(金)	オナーズプログラム学部カリキュラム入学説明会		
	8(月)	第1学期全学教育・総合教育授業開始		
	12(金)	グローバル基礎科目授業開始(5・6講目、ガイダンス)	9(火)	第1回大学院カリキュラム秋入学説明会(日本語)
	17(水)	オナーズプログラム学部教育コース入校者ガイダンス	11(木)	第2回大学院カリキュラム秋入学説明会(英語)
	18(木)	オナーズプログラム学部教育コース入校者ガイダンス		
5				
	10(金)	第1回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(OL)		
	13(月)	第1回学部カリキュラム教務専門委員会(OL)		
	17(金)	第1回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	17(金)	第1回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	18(土)	第1回セルフキャリア発展ゼミ		
6			5(水)	オナーズプログラム春ターム授業終了
			12(水)	オナーズプログラム夏ターム授業開始
			16(日)	第1回メンターフォーラム・メンター会議
	22(土)・23(日)	第2回セルフキャリア発展ゼミ		
7	5(金)	第1回新渡戸カレッジ評価委員会(OL)		
			24(水)	オナーズプログラム夏ターム授業終了
	29(月)	オナーズプログラム学部カリキュラム入学説明会		
8	2(金)～9.30(月)	全学教育・総合教育夏季休業		
	4(日)～5(月)	オープンキャンパス		
9			6(金)～9(月)	TOEIC-IP試験(OL)
	11(木)	第2回学部カリキュラム教務専門委員会(OL)	9(月)	第2回大学院カリキュラム教務専門委員会(OL)
			19(木)	オナーズプログラム大学院カリキュラム修了式(9月修了)
	27(金)	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	27(金)	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	28(土)	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ(第1回)		
10	1(火)	第2学期全学教育・総合教育授業開始	1(火)	第1回春入学説明会(日本語)
			3(木)	第2回春入学説明会(英語)
	5(土)	オナーズプログラム学部カリキュラム入学式、第1回フェローゼミ	5(土)	オナーズプログラム大学院カリキュラム入学式、オナーズプログラム秋ターム授業開始
	19(土)	第2回フェローゼミ(現地視察)		
	26(土)	第3回フェローゼミ		
11	9(土)	第4回フェローゼミ		
	23(土)	第5回フェローゼミ	27(水)	オナーズプログラム秋ターム授業終了
			4(水)	オナーズプログラム冬ターム授業開始
12				
	7(土)	公開シンポジウム・成果発表会、振返り会		
	14(土)	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ(第2回)	14(土)	第2回メンターフォーラム・メンター会議
	21(土)	TOEFL-ITP試験		
	30(月)～1.3(金)	全学教育・総合教育冬季休業		
1	6(月)	全学教育・総合教育授業再開	22(水)	オナーズプログラム冬ターム授業終了
2				
	3(月)	第2学期全学教育・総合教育授業終了	6(木)～17(月)	第1回奨学金支援専門委員会(持ち回り)
	6(木)～17(月)	第1回奨学金支援専門委員会(持ち回り)		
	9(日)	第2回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(振返り会)(OL)	14(金)	第1回広報・システム専門委員会(OL)
	14(金)	第1回広報・システム専門委員会(OL)		
3	21(金)	第3回学部カリキュラム教務専門委員会(OL)	28(金)	第3回大学院カリキュラム教務専門委員会(OL)
			4(火)	第3回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会(OL)
	4(火)	第3回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会(OL)	19(水)	オナーズプログラム大学院カリキュラム修了式(3月修了)
	25(火)	学位記授与式(札幌) オナーズプログラム学部教育コース修了式		
	26(水)	学位記授与式(函館)		

注) OL: オンライン会議

7 新渡戸カレッジ授業概要、行事概要

(1) 学部カリキュラム

2024 年度新渡戸カレッジ グローバル基礎科目実施報告

【グローバル基礎科目について】

グローバル基礎科目は前期の春ターム(国際理解と海外留学)と夏ターム(リーダーシップとチームワーク)に提供されている全学教育科目で全学生が履修可能になっている。同時に新渡戸カレッジを目指している学生の必須科目でもある。本科目は、新渡戸カレッジの理念と教育目標に基づく授業として設計されており、オナーズプログラムで必要とされるアカデミックスキルの習得も視野に入れている。

本年度の授業は金曜日の5・6講目を開講された。全学生が履修可能なので、履修者の数が増加した。新渡戸カレッジに申し込んだ学生は203名で、入校を認められた学生数は181名だった。

グローバル基礎科目の担当者は、春タームは佐々木・啓文学研究院特任教授、夏タームはラフェイ ミシェル文学研究院教授、春タームと夏タームに支援教員として、田中孝平高等教育推進機構助教及び鄭漢模高等教育推進機構助教の協力を得た。コアチューター4名とチューター20名の助言と支援の下で履修者は課題に取り組んだ。

表：2024 年度グローバル基礎科目履修者数

開講時期	時限	履修者数	2年生(3年生)	1年生	単位取得者数
春ターム：国際理解と海外留学	金5	296	10	286	282
	金6	139	10(1)	128	126
夏ターム：リーダーシップとチームワーク	金5	225	4	206	210
	金6	222	3	205	208

【春ターム「国際理解と海外留学」】

春タームの「国際理解と海外留学」では、海外経験の豊富な講師から、国際社会における課題や各研究分野の状況、留学の実態などを学んだ。また、講義を通じて、キャリアデザインの観点から自分自身の留学の目的と意義を考えるとともに、今後の留学に向けて主体的・計画的に考え、行動できるようになることを目指した。

本年度は佐々木啓文学研究院特任教授の担当のもとで、6名の講師に講義をしていただいた(樋田京子・歯学研究院教授、弐和順・文学研究院教授/新渡戸カレッジ副校長、児矢野マリ・法学研究科教授、ラフェイ ミシェル・文学研究院教授、日野峰子・新渡戸カレッジフェロー、井上修平・高等教育推進機構客員教授。第8回は学生による留学体験談)。

【夏ターム「リーダーシップとチームワーク」】

夏タームの「リーダーシップとチームワーク」について、講義や各自の資料調査から学び、グループワークを通じて各自の考えを深めた。さらに、チームで課題に取り組みながら、ディスカッションや発表のための実践的なスキルを磨き、自ら望ましいリーダーシップを発揮でき

ようになることを目指した。

本科目の課題は札幌市まちづくり政策局の協力を得て、札幌市が抱える具体的な課題を提示していただいたうえで、学生との質疑応答、最終発表の講評などにも協力いただいた。本年度は「札幌市の人口減少対策について ～さっぽろ未来創生プラン」についてチームで検討し発表を行った。グループワークでは、KJ法^{注)}などの基本的な手法を実践したほか、メンバー同士のフィードバックや報告の提出によって振り返りと改善を促した。

各クラスの授業進行は、事前研修を受けたコアチューター4名（名和桃子（農4）、三岡莉子（保M1）、羽鳥健太郎（農3）、佐々木有那（工3））とチューター20名が担当した。

注） KJ法：カードや付箋を用いて情報を整理・構造化し、問題解決や新たな発見につなげる手法

2024年度グローバル基礎科目 春ターム「国際理解と海外留学」授業スケジュール
教室：S2講義室

回	日付	タイトル（担当者・所属）	キーワード	内容	課題
1	4/12 (金)	オリエンテーション (佐々木啓・文学研究院 シュルター智子・高等教育推進機構)		シラバスに基づいて、本科目の目標や概要、スケジュール、評価方法を説明し、北大での海外留学プログラムについて紹介する。	宿題① (4/19正午まで)
2	4/19 (金)	ハーバード子連れ留学 (樋田京子・大学院歯学研究院)	研究留学、血管新生、 ポストドク、子育て、 アメリカ	留学開始時1才だった双子達を連れて夫とともにハーバード大学に留学した4年間の経験、研究生生活、米国での子育て、留学先で出会ったワーキングハベラントとの交流から感じたもの、学んだことを講義で紹介する。	第2回出席レポート (4/26正午まで)
3	4/26 (金)	新渡戸稲造と『武士道』 (神和順・文学研究院、 新渡戸カレッジ副校長)	新渡戸稲造、 『武士道』、 利他的精神、国際理解	新渡戸稲造の生涯をたどるとともに、代表作『武士道』の読解を通して、その利他的精神（ノブレス・オブリージュ）、国際理解、リーダーシップなどについて解説し、あわせて現代的意義を考察する。	第3回出席レポート (5/10正午まで)
4	5/10 (金)	海外でトラブルに遭ったとき、 お役立ち法律関係の豆知識 ーとくに国際法の視点から (児矢野マリ・法学研究科)	海外でのトラブル、 リスク管理、法律関係、 国際法、条約	A国留学中にB国を旅行していたX君は、突然よくわからないままにB国の警察に連行されてしまいました。X君は、B国の現地語をよく話せないし、B国内に知人・友人もいません。どうしたらいいのでしょうかーこんなとき、法律関係の豆知識は必須。この授業では、現実の具体例を題材に、国際法の視点で基本的な対処方法について学びます。	第4回出席レポート (5/17正午まで)
5	5/14 (火) 6講時 OD	Thinking about Study Abroad (ラフエイ ミシエル・文学研究院)	Experiences and benefits of study abroad. Varieties of programs, language tests.	How to plan your study abroad! Tips on identifying your purpose, deciding where to go, and navigating the application process. Get some advice from real-life experiences.	第5回出席レポート (5/24正午まで)
6	5/17 (金)	(日野峰子・新渡戸カレッジフェロー)	リンガフランク、 国際人としてのコミュニ ケーション能力、 デリバリーとプラクティ ス	良くも悪くも事実上のリンガフランクとなってしまった英語ですが、せっかく学ぶのならば効果的に使えるようになりたいものです。会議通訳者が遭遇した「痛い」人々を反面教師として、コミュニケーターとして目指すべき姿を考えてみましょう。	第6回出席レポート (5/24正午まで)
7	5/24 (金)	国際プロジェクト商戦 海外現場からのメッセージ (井上修平・高等教育推進機構)	情報、知識、 経験、先読みの力	海外エネルギー開発プロジェクトは、大規模で、難易度の高いビジネスです。然しながら、エネルギーの殆どを海外輸入に依存する我が国にとっては必要不可欠の事業です。あなたならどのように取り組みますか。	第7回出席レポート (5/31正午まで) ※最終課題レポート (6/28正午まで) 課題発表
8	5/31 (金)	学生による留学体験談	先輩の留学体験談、 留学の意義、 留学プラン	留学を経験した先輩学生に、その体験に基づく留学の意義を語ってもらう。質疑応答、ディスカッションを行うことで、内容の理解を一層深める。	宿題② (6/14正午まで)
					最終課題レポート (6/28正午まで)

【夏ターム・各クラス代表チームの発表スライド】

若者
逃がさない
大作戦

Opunehin Da Nit Let the Youth Run Away

5A-d

安藤成美 上野菜緒 本間光良 菊池巧起
鈴木仁菜 山口温也 山田夏己

5講目

スマート農業とPR事業で
人口流出抑制へ！

5C_c
伊藤大然 加藤裕樹
田中彩音 三角淳太郎
南谷遥 山下紘佑
渡邊響太



広報に力を！

Sapporo Be Real！

藤本香 加茂英太郎
大矢夏輝 道念真菜
伊藤舞衣 梅谷周平 小島大輝



5E-f
青沼奏汰、安藤日向、石塚咲妃、
宇野諒、加藤桃香、鈴木梨枝、古市高

50年後も活気のある札幌を目指して
札幌市の人口減少対策

5A-a 神谷 櫻井 柴垣 津久井

6講目

札幌に労働者を！
～Let's Work
in Hokkaido!～



6C-B
秋海来 萩田逢花 河内いずみ 黒田剛志
先田敬之 百瀬由芽子 米濱拓朗

雇用を増やそうっ！！！！

6B-a
近納生吹 福岡裕 高木菜名花
本美凜空 宮本真徳 板津成美 原柊太

スタートアップで人口アップ！

6D-a 加納央都・江口もえぎ・玉置法子・山下琳太郎・
田平雅浩・宮内久望

〇〇を通して
人口減少を防ぐ

6E-a
寺岡花 福留いのり 田島光 小林豪 遠藤昌吾 山川環

2024 年度新渡戸学（フェローゼミ）実施報告

1. フェローゼミの概要

新渡戸学（フェローゼミ）はオーナーズプログラム入校後、最初に取り組むべき必修科目で、少人数の演習形式で行われる授業である（1 単位、合否評価）。

(1) 目的

世界が抱えている諸問題について、実際に現地を視察して学ぶとともに、グループワークを通して、学問と社会のあり方や持続可能な社会のあり方を考え、同時にリーダーシップやチームワーク力を身につける。

(2) 目標

- ① 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。
- ② 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。
- ③ ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。
- ④ ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。

(3) 内容

- ゼミ担当フェローの他、支援教員、テーマに関連する関係者が協力し、2024 年度は 6 テーマで実施した。初回は 10 月 5 日の新渡戸カレッジ合同入校式の後、全体オリエンテーションに続いて行った。テーマ別に分かれて全 5 回のゼミを実施し、12 月 7 日の公開シンポジウム成果報告会で終了した。
- チューターは新渡戸カレッジ 2 年目以上の上級生等が担当した。ゼミを支援するチューターは各ゼミにつき 3 名（合計 18 名）、ゼミチューターを統括するコアチューターは 4 名が担当した。フェローゼミにおけるコアチューターの主な役割は担当教員及びゼミ統括フェロー、チューターとの調整やチューターへの指導助言である。
- 履修者は 6 ゼミの一つに所属するが、希望者が集中するゼミでは抽選により履修者を決定した。
- 公開シンポジウム成果報告会は、フェローゼミの成果報告や意見交換を通じて視野を広げ、知識を深めることを目的として 12 月 7 日に実施した。各ゼミの持ち時間は発表 15 分、質疑応答 8 分、交代 2 分の 25 分である。フェローゼミ履修生による投票で学生大賞を決定し、2024 年度は大友フェローゼミが受賞した。また講評では、ゼミ統括の多田幸雄フェロー及びコアチューターの 4 名で、各ゼミを聴講した時の様子やシンポジウムの発表について感想を述べ、2 か月間のゼミ全体にわたっての講評とした。その他、学生企画行事等の発表時間を取り、担当学生によるプレゼンが行われた。また、高大連携を行っている高校へ公開シンポジウムへの参加（大講堂での参加またはライブ配信での視聴）を呼びかけた。公開シンポジウムの様子はライブ配信を行い、フェローゼミ関係者をはじめ、新渡戸カレッジフ

フェロー等に視聴案内を送付した。

- 公開シンポジウム成果報告会の録画映像、発表スライド、発表要旨は学内のシステムを利用し、履修者、チューター及びフェローゼミ担当フェロー・支援教員に共有する予定である。

(4) 2024 年度新渡戸学（フェローゼミ）とそのテーマ

ゼミ名	テーマ	履修者
石川めぐみフェローゼミ	北海道におけるアドベンチャートラベル	30 名
石川裕一フェローゼミ	グローバル化の終焉における我国の安全保障	30 名
大友俊彦フェローゼミ	持続的な健康促進、未来の生き方を考える	28 名
多田幸雄フェローゼミ	備えあれば憂いなし、「学内留学」の勧め	31 名
萩野泉フェローゼミ	メディア・コミュニケーションの視点からみる持続可能な発展	29 名
廣重勝彦フェローゼミ	スタートアップで社会課題を解決する	30 名

2. フェローゼミの実施経過

日程	内容	備考
5/22 (水)	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
7/12 (金)	チューター募集開始	
8/22 (木)	新渡戸カレッジオナーズプログラム (学部) 入校申請開始 (フェローゼミ募集含む)	
8/2 (金)	チューター採用決定	18 名を採用 (1 ゼミ 3 名)
9/20 (水)	所属ゼミ発表	
9/24 (火)	チューター事前説明会	対面で実施
10/1 (火)	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
10/5 (土)	新渡戸カレッジ入校式 (学部・大学院合同) 全体オリエンテーション 第 1 回フェローゼミ	
10/19 (土)	第 2 回フェローゼミ	現地視察 (一部ゼミは別日程で実施)
10/26 (土)	第 3 回フェローゼミ	
11/9 (土)	第 4 回フェローゼミ	(一部ゼミは別日程で実施)
11/23 (土)	第 5 回フェローゼミ	
12/7 (土)	公開シンポジウム成果報告会 ゼミ別振り返り	フェローゼミの発表、学生企画行事等の発表、講評、学生大賞表彰

(参考)

正式入校生：181 名 (1 年次 165 名、2 年次 16 名)

ゼミ履修者：178 名 (1 年次 163 名、2 年次 15 名) (退校：2 名、ゼミ履修済：1 名)

チューター：18 名 (大学院 3 名、学部 15 名)

コアチューター：4 名 (大学院 1 名、学部 3 名)

3. フェローゼミの様子



第1回ゼミでの集合写真（多田ゼミ）



サッポロピリカコタンの視察（石川めぐみゼミ）



雪冷房システムの視察（多田ゼミ）



UHB スタジオの視察（萩野ゼミ）



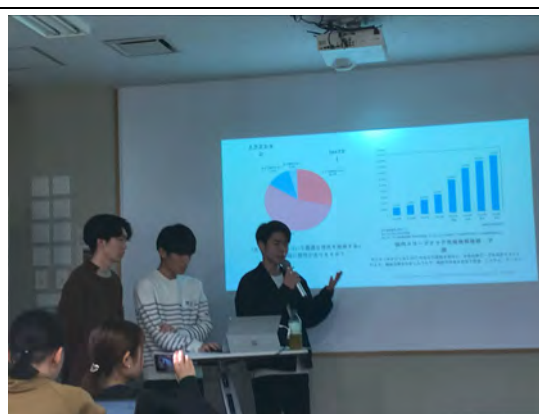
UHB での講義（萩野ゼミ）



株式会社 AWL での講義（廣重ゼミ）



第4回ゼミでのグループワーク（石川めぐみゼミ）



第5回ゼミの様子（廣重ゼミ）



公開シンポジウム成果報告会（大友ゼミ発表）



公開シンポジウム成果報告会（石川裕一ゼミ質疑応答）



コアチューターによる講評



学生大賞受賞ゼミ（大友ゼミ）



学生企画の発表



チューター制度についての説明



公開シンポジウム終了後の全体集合写真



振り返り後の集合写真（石川裕一ゼミ）

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE棟、第2回～第5回はS棟

テーマ	北海道におけるアドベンチャートラベル		
科目責任者	畑中 貴美		
担当フェロー	石川 めぐみ（いしかわ めぐみ）		
支援教員	山畑 倫志（やまはた ともゆき） 高等教育推進機構講師		
キーワード	アドベンチャートラベル・旅行・インバウンド・異文化体験・アクティビティ・自然・体験型観光		
目的	海外からの旅行者が増え続けている中、注目すべき新しい観光の形が「アドベンチャートラベル（AT）」。昨年9月にはアドベンチャー・トラベル・ワールドサミット（ATWS）が北海道で行われ、国内外の多くの旅行関係者が参加した。北海道としても普及に力を入れていく方針だが、交通手段や担い手不足などの課題も明らかになってきている。北海道におけるATの可能性や課題について考え、重要な産業である旅行・観光業の今後に向けて提案を行う。		
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。		
内容	第1回 10月5日 (土)	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）	
		【全体オリエンテーション】（10:45～11:25） 弐副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）	
		【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35） 【各ゼミでのオリエンテーション】	
		第1コマ（13:45～15:15）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■自己紹介 ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールなど説明）	
		■講義 「新たな旅の潮流・アドベンチャートラベル」 石川めぐみ	
		第2コマ(15:30～17:00)：【各ゼミでの授業】 ■グループ分け、リーダー選出 ■グループディスカッション 講義を基に課題の仮抽出 方向付けなど	
	(自主準備)	●講義内容と参考資料を基に、北海道におけるATの課題について各自考えておく	
	第2回 10月19日 (土)	第3コマ（9：00～13：00）：【現地視察】 ■石山緑地とアイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）視察 9：00 北大発→石山緑地→ピリカコタン 12：25ピリカコタン発→13:10北大着	
		第4コマ（14：00～15：30）：【ご講義】 ■北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木宏一郎氏のご講義	
	(自主準備)	●現地視察とご講義を基に、自分が感じたATの可能性と課題についてのレポートを提出	
	第3回 10月26日 (土)	第5コマ（10：30～12：00）： ■グループディスカッション グループの課題の確定	
		第6コマ（13：00～14：30）： ■グループディスカッション 課題に沿った発表内容の大筋組み立て	
	(自主準備)	●チームごとに関連の情報収集、中間発表の準備	
	第4回 11月9日 (土)	第7コマ（10：30～12：00）： ■中間発表 各グループごとに発表 全体での意見交換	
		第8コマ（13：00～14：30）： ■発表者やデータ担当などの役割決定、中間発表を踏まえての調整・ブラッシュアップ	
	(自主準備)	●全体としての成果報告会に向けての準備	
	第5回 11月23日 (土)	第9コマ（10：30～12：00）： ■成果報告会に向けての内容準備	
		第10コマ（13：00～14：30）： ■成果報告会に向けての内容準備	
	(発表要旨提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/3（火）（予定）	
	(発表スライド提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/4（水）（予定）	
	公開シンポジウム 12月7日 (土)	(10:00～15:40予定)：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰	
		(16:00～17:00 予定)：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）	
成績評価の基準と方法	出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。		
参考図書・文献等	北海道経済部観光局「アドベンチャートラベル（AT）について」 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/133558.html 北海道観光振興機構「ADVENTURE TRAVEL HOKKAIDO」 https://visit-hokkaido.jp/adventure-travel/ 国土交通省北海道運輸局「ATで求められるコーディネーターとは」 https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000235640.pdf 国土交通省北海道運輸局「ATコンテンツ磨き上げについて」 https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000235664.pdf 日本政策投資銀行「アドベンチャーツーリズムを通じた北海道の持続可能な観光地域づくり」 https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/8376f520c8e5b89d474612683be327ea.pdf		
備考：サッポロピリカコタンの入館料（180円）は自己負担となります			

22

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：1回はE205、第2回～第5回はS4

テーマ	グローバリゼーションの終焉における我国の安全保障	
科目責任者	畑中 貴美	
担当フェロー	石川 裕一（いしかわ ゆういち）	
支援教員		
キーワード	グローバリゼーションの終焉・自然権・戦争の背景と平和への道・日米関係史・明治維新以降の戦争の時代の背景・地政学・地経学・自衛隊の存在意義	
目的	グローバリゼーションの終焉に伴い我国独自の安全保障の在り方を考察する。通説であった明治維新の評価に疑問を呈し、国学を背景とした尊王攘夷が第二次大戦への道程であったことを検証し、将来の平和国家としての存続の道を学ぶ。安全保障という概念の歴史的背景を考察し、私人の安全保障と国家の安全保障の同意性を認識する。東アジアのこれからの地政学的リスク、地経学的リスクを考察し我国の取るべき指針を策定する。メディアの情報を盲信することなく、自らの頭で思考し、自らの言葉で自らの考えを発言する事の価値を認識し、思考停止の恐ろしさを学び、思考停止の状況からの開放を目指す。	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容		【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）
		【全体オリエンテーション】（10:45～11:25） 弐副校長、多田幸雄フェローゼミ統括フェロー、畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35）【各ゼミでのオリエンテーション】
	第1回 10月5日 (土)	第1コマ（13:45～15:15）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】
		歴史認識の確認
		主権国家の定義・戦争の背景と平和への希求
		第2コマ（15:30～17:00）：【各ゼミでの授業】
		参加者の各人におけるゼミのテーマの設定、自らが学びたいテーマの設定、チーム分けを行う
		■
		■
	(自主準備)	課題図書の熟読
	第2回 10月19日 (土)	第3コマ（8:30～16:00）：【現地視察】陸上自衛隊真駒内駐屯地の視察・北部方面の講話
		■
		第4コマ（：～：）：【 】
		■
	(自主準備)	●
	第3回 10月26日 (土)	第5コマ（13:30～15:00）
		各チームによるテーマの深耕・通説への疑問点を整理して自らの思考にて考察し、各チームにてブレインストーミングを行う。つまり自らの思考で得た見解の開示を行い議論を通じ通説の疑義を検討する。
		第6コマ（15:15～16:45）
		継続議論の時間
	(自主準備)	
	第4回 11月2日 (土)	第7コマ（13:30～15:00）
		元統合幕僚議長河野氏による我が国の安全保障の課題・ウクライナ情勢・台湾有事・緒戦半島問題等
		第8コマ（15:15～16:45）
		河野氏への質疑応答
	(自主準備)	各チームでの検討結果を取りまとめ、11月23日のプレゼンテーションへの準備
	第5回 11月23日 (土)	第9コマ（13:30～15:00）
		各チームで選定したテーマを全員の前でプレゼンテーションを行う
		第10コマ（15:15～16:45）
		R.D.エルドリッジ元米国海兵隊幹部による講話。第9コマで行ったプレゼンテーションの取りまとめを行い、一つのテーマに絞り、最終プレゼンテーションの準備を行う。この時点で公開シンポジウムへの準備を行う。
	(発表要旨提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/3（火）（予定）
	(発表スライド提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/4（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月7日 (土)	（10:00～15:40 予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会—持続可能な社会の実現を目指して—】（大講堂）
		■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00 予定）：【フェローゼミ総括】
		■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。	
参考図書・文献等	別紙参照	
備考：		

石川ゼミ参考図書一覧

1. 日本の生きる道	平川祐弘	飛鳥新社
2. 日本人として知っておきたい「世界激変」の行方	中西輝政	PHP 新書
3. ルーズベルトの開戦責任	ハミルトン・フィッシュ	草思社
4. 常識「日本の安全保障」	日本の論点編集部	文春新書
5. ロシア革命史入門	広瀬 隆	インターナショナル
6. ハリス 日本滞在記（上・中・下）	ハリス	岩波新書
7. 日本の宿命	佐伯啓司	新潮新書
8. 違和感の正体	先崎彰容	新潮新書
9. この国を守るための外交戦略	岡崎久彦	PHP
10. カエルの楽園	百田尚樹	
11. 茶の本	岡倉天心	
12. 異形の大国 中国	桜井よしこ	新潮文庫
13. 日本の危機	桜井よしこ	新潮文庫
14. 人間知性論	ジョン・ロック	岩波文庫
15. 統治二論	ジョン・ロック	岩波文
16. 平和の海と戦いの海	平川祐弘	講談社文庫
17. 後世への最大遺物デンマーク国の話	内村鑑三	岩波文庫
18. キリスト信徒のなぐさめ	内村鑑三	岩波文庫
19. 新自由主義の廃墟で	ウェンディ・ブラウン	人文書院
以上		

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE216、第2回～第5回はS11

テーマ	持続的な健康促進、未来の生き方を考える	
科目責任者	畑中 貴美	
担当フェロー	大友 俊彦（おおとも としひこ）	
支援教員	野澤 俊介（のざわ しゅんすけ） 高等教育推進機構准教授	
キーワード	健康、医療、公共サービス、福祉、高齢化、街づくり、持続性	
目的	医療・福祉の状況をふまえ、健康促進、健康に生きるための課題を考察し、あらゆる年齢の人が健康で暮らせるための社会の在り方を考える	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容	第1回 10月5日 (土)	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）
		【全体オリエンテーション】（10:45～11:25） 弐副校長、多田幸雄フェローゼミ統括フェロー、畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ（13:45～15:15）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールの説明）、演習テーマ解説 ■ 外部講師による講演：栗崎札幌市保健福祉局長『札幌市における健康寿命延伸施策(仮)』
	(自主準備)	第2コマ（15:30～17:00）：【各ゼミでの授業】 ■ 外部講師による講演：(株)ホクノ小黒様、TOPPAN(株)本間様『ホクノ健康ステーションにおける取組(仮)』 ■ チーム編成、リーダー決め、各チームで課題抽出、取り組みの方向性など議論
		●参考文献を含め、各自参考となるような取り組みの調査ならびに課題抽出
	第2回 10月19日 (土)	第3コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ さっぽろウエルネス（健康寿命延伸）プロジェクト概要（札幌市ウエルネス推進担当・阿部様）
		第4コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 現地視察・演習に向けた仮設構築・検証方法に関する議論
	(自主準備)	●実施検証に向けた準備
	第3回 10月26日 (土)	第5コマ（午前）：【現地視察・札幌チカホ（調整中）】 ■ 第2回ゼミでの検討結果をふまえ、実地検証の実施
		第6コマ（午後）：【現地視察・札幌チカホ（調整中）】 ■ 実地検証結果のまとめ、考察に関する議論
	(自主準備)	●チームでの資料作成、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第4回 11月9日 (土)	第7コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン発表
		第8コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン内容に関する意見交換、全体発表に向けた準備
	(自主準備)	●最終プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第5回 11月23日 (土)	第9コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン発表
		第10コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン内容に関する意見交換、全体発表に向けた準備
	(発表要旨提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/3（火）（予定）
	(発表スライド提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/4（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月7日 (土)	(10:00～15:40 予定)：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】（大講堂） ■ フェローゼミの発表、講評、表彰
		(16:00～17:00 予定)：【フェローゼミ総括】 ■ ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。	
参考図書・文献等	・『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』西 智弘 編著（学芸出版社） ・『コミュニティカフェ』- まちの居場所のつくり方、続け方 遠藤 保 著（学芸出版社） ・ホクノ健康ステーション：https://www.hokuno.com/pickup/ https://www.toppan.co.jp/biz/social/case/health02.html ・健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書 https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000495323.pdf ・190万都市、札幌市の人口構造に見る課題 https://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido0909_01.pdf ・健康さっぽろ21（札幌市健康づくり基本計画） http://www.city.sapporo.jp/eisei/kenkozukuri/kenko21/index.html ・『「疑う」からはじめる。』-これからの時代を生き抜く思考・行動の源泉 澤 円 著（アスコム） ・図解ビジネスモデル・ジェネレーションワークショップ 今津 美樹 著（翔泳社）	
備考：		

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE棟、第2回～第5回はS棟

テーマ	備えあれば憂いなし、「学内留学」の勧め、	
科目責任者	畑中 貴美	
担当フェロー	多田 幸雄 （ただ ゆきお）	
支援教員	Michelle La Fay	
キーワード	超奇抜で超突飛な（Extra Ordinary, Super Unique, Outlandish and even Weird）発想で自由に取り組む	
目的	海外留学の準備を学内で効果的に行うアイデアを学生自身で考え、実践して、大学及び関係教育機関に提言する	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容	第1回 10月5日 (土)	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）
		【全体オリエンテーション】（10:45～11:25） 弐副校長， 多田幸雄フェローゼミ統括フェロー， 畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35） 【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ（13:45～15:15）： 【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ 全体の概論、自己紹介 ■ 多田幸雄の留学準備体験記「私の留学前、留学後」を題材に自由討論、社会的弱者も考慮した次世代の留学準備
		第2コマ(15:30～17:00)： 【各ゼミでの授業】 ■ Michelle La Fayの「私の日本留学、滞日生活」の体験記、及びチューターの短期留学の経験から自由討論 ■ 二回目以降の準備、チーム編成
		(自主準備)
	第2回 10月19日 (土)	第3コマ（北大高等教育推進機構 8：45 集合、9：00 出発～） 【現地視察】モエレ沼公園へ ■ モエレ沼公園で留学生と交流しながら実地研修、帰路に丘珠空港を周回
		第4コマ（13:00～14:30） 【現地視察の振り返り】 ■ 現地視察内容のグループ討論
	(自主準備)	● グループ内の自分の期待役割を認識
	第3回 10月26日 (土)	第5コマ（9：15～10：45）：チーム毎に課題の整理・実施・提言に向けた検討 ■ 外部講師（札幌国際プラザ 多文化交流部 相談支援課 バラスリヤ・ドゥラーニ氏、岡部 相談支援課長）
		第6コマ（11：00～12：30）：チーム毎に課題の整理・実施・提言に向けた検討 ■ 外部講師（HIECC 北海道国際交流・協力総合センター 管理チーム 参事 金子徳之氏）
	(自主準備)	● チーム毎の資料作成、プレゼン準備
	第4回 11月9日 (土)	第7コマ（9：15～10：45）： ■ チーム毎に課題の整理・実施・提言の発表に向けた資料準備
		第8コマ（11：00～12：30）： ■ 各チームからの中間発表、質疑応答、意見交換
	(自主準備)	● チーム毎のテーマ内容の見直し、プレゼン資料の補強
	第5回 11月23日 (土)	第9コマ（9：15～10：45）： ■ 各チームからのプレゼン発表、意見交換、
		第10コマ（11：00～12：30）： ■ 全体発表に向けた統合準備
	(発表要旨 提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/3（火）（予定）
	(発表スライド 提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/4（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月7日 (土)	(10:00～15:40 予定)： 【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		(16:00～17:00 予定)： 【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。	
参考図書・文献等	多田幸雄「私の留学前、留学後」（追って掲載予定・配布） 札幌米国総領事館 教育アメリカ (state.gov) https://educationusa.state.gov/centers/us-consulate-general-sapporo 海外大学オンライン授業 MOOCs(Massive Online Courses)の勧め： https://kanabroad.com/free-online-class/ 2019年 多田ゼミ： https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/Report-FellowZemi-fy2019.pdf 在米NPO法人の活動： https://www.cepex.org/	
備考：超奇抜で超突飛な発想を重視します。閉塞感の漂う日本社会を変えていくのは、あなたたちだ！		

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE207、第2回～第5回はS12

テーマ	メディア・コミュニケーションの視点からみる持続可能な発展	
科目責任者	畑中 貴美	
担当フェロー	萩野 泉（はぎの いずみ）	
支援教員	亀野 淳（かめの じゅん） 高等教育推進機構教授	
キーワード	メディア, コミュニケーション, アイデア発想, ライフスタイル, 持続可能な発展	
目的	新しいデバイスやプラットフォームの登場、データの増大を伴うテクノロジーの発展、社会環境や意識価値観の変遷による情報接触環境の変化により、ユーザー体験が継続的に変化し多様性を帯びているメディア・コミュニケーション領域の視点から、これからの世界諸国・日本・北海道における「持続可能な発展」に必要なアイデアを考える。	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容	第1回 10月5日 (土)	【新渡戸カレッジ入校式】 (9:30～10:30)
		【全体オリエンテーション】 (10:45～11:25) 弐副校長, 多田幸雄フェローゼミ統括フェロー, 畑中貴美 (大講堂)
		【第1回フェローゼミ】 (11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】
		■フェロー・支援教員・チューター自己紹介 ■ゼミテーマの説明
		第1コマ (13:45～15:15) : 【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ゼミの説明、自己紹介、各種作業 ・ゼミテーマの説明 (25分) ・ゼミ生自己紹介 (60分) ・チーム分け (5分)
		第2コマ (15:30～17:00) : 【各ゼミでの授業】 ■ゼミで取り上げるテーマの説明、グループディスカッション ・ゼミテーマを基にした個人ワーク/グループディスカッション (25分) ・ゴールデンサークル理論に関する動画閲覧 (20分) ・チーム調整 (10分) ・グループディスカッション：仮説出し (30分) ・次回オリエンテーション (5分)
	(自主準備)	●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討 ●UHB提供番組の視聴 (テレビ、TVer、見逃し配信など) (例) https://www.uhb.jp/program/ittoko/minogashi/ ●UHB提供イベント・キャンペーンのチェック (https://www.uhb.jp/event/) ●各種新聞の閲読
	第2回 10月19日 (土)	第3コマ (09:30～15:00) : 【現地視察】 ■北海道文化放送株式会社 (UHB) 様での現地視察 ・局内見学、スタジオ見学 ・報道ご担当者様からの講義 ・コンテンツ/バラエティなどの企画・制作ご担当者様からの講義 ・質疑応答 ※天災や北海道内での事件発生時には、局内での緊急対応が必要となるため見学が難しく/中止となる可能性があります
		第4コマ ■同上
	(自主準備)	●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討
	第3回 10月26日 (土)	第5コマ (13:00～14:30) : 【グループ内ディスカッション】 ■仮説と現地視察で得た示唆などを基にしたゴール (ありたき生活者/世界の姿) の設定 ・オリエンテーション (10分) ・各自作業 (20分) ×2回 ・グループ内ディスカッション (20分) ×2回
		第6コマ (14:45～16:15) : 【グループ内ディスカッション】 ■ゴール (ありたき生活者/世界の姿) の設定と、それを実現する方法の検討 ・各グループ内でのまとめ (30分) ・各自作業 (15分) ×2回 ・グループ内ディスカッション (15分) ×2回
	(自主準備)	●各自情報収集、発表用資料作成準備

	第 4 回 11月9日 (土)	第 7 コマ (13:00~14:30) : 【グループ内ディスカッション・資料作成】 ■設定したゴール (ありたき姿) とそれを実現する方法の検討 ・資料作成にかんするオリエンテーション ・グループ内ディスカッション ・個別/チーム作業
		第 8 コマ (14:45~16:15) : 【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループが考えた内容の発表、意見交換 ・グループごとに発表・質疑応答 ・グループ内ディスカッション ・資料作成/データ収集
	(自主準備)	●発表用資料作成
	第 5 回 11月23日 (土)	第 9 コマ (13:00~14:30) : 【グループ間ディスカッション】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める ・資料修正、データ収集などの作業 (15分) ・グループごとに発表・質疑応答 (60分) ・発表グループの決定 (15分)
		第10コマ (14:45~16:15) : 【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める ・資料修正、データ収集などの作業 (90分)
	(発表要旨 提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切: 12/3 (火) (予定)
	(発表スライド 提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切: 12/4 (水) (予定)
	公開シンポジウム 12月7日 (土)	(10:00~15:40 予定) : 【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		(16:00~17:00 予定) : 【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り (各教室)
	成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		★イノベーションに関する動画 https://www.youtube.com/watch?v=CkDH3kW4bUM https://vimeo.com/48997854 ゴールデンサークル理論に関する記事 https://www.rarejob.com/englishlab/column/20190525/ SDGs思考 2030年のその先へ 17の目標を超えて目指す世界 https://www.amazon.co.jp/dp/4295009970
備考:		

2024年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE215、第2回～第5回はS5

テーマ	スタートアップで社会課題を解決する
科目責任者	畑中 貴美
担当フェロー	廣重 勝彦（ひろしげ かつひこ）
支援教員	
キーワード	スタートアップ、社会課題、SDG s、カーボンニュートラル、AI、北海道、リーダーシップ、幸せ
目的	「自分自身で社会課題を解決する力」と「リーダーシップ」を身につける
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容	
	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30） 【全体オリエンテーション】（10:45～11:25） 弐副校長、多田幸雄フェローゼミ統括フェロー、畑中貴美（大講堂） 【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35）【各ゼミでのオリエンテーション】 第1コマ（13:45～15:15）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■スタートアップとは何か？ ゼミ生にとって、なぜいまスタートアップなのか？ ■ スタートアップに取り組んでみる 第2コマ（15:30～17:00）：【各ゼミでの授業】 ■取り組む課題の絞り込みと解決策の検討 ■1分間ピッチ（プレゼン）
	（自主準備） ●1分間ピッチを改善する
	第2回 10月19日 （土） 第3コマ（12:00～13:00）：【北キャンパスFMI】 ■スタートアップ経営者との交流とピッチ（株式会社インバウンドテック代表取締役東間大氏） 第4コマ（13:00～18:00）：【札幌市内各所】 ■北大発スタートアップ等への訪問
	（自主準備） ●現地視察で得たアドバイスをもとに、アイデアを改善する
	第3回 10月26日 （土） 第5コマ（9:00～10:30）： ■解決する社会課題の絞り込みと徹底したリサーチ 第6コマ（10:45～12:15）： ■解決策（ビジネスモデル）の組み立て
	（自主準備） ●具体的な課題解決策（製品・サービス）をまとめる
	第4回 11月9日 （土） 第7コマ（9:00～10:30）： ■ビジネスモデルの検証（大学外でのリサーチ） 第8コマ（10:45～12:15）： ■実践のための計画（資金計画など）づくり
	（自主準備） ●本格的なピッチに備える
	第5回 11月23日 （土） 第9コマ（9:00～10:30）： ■ゼミ内の最終ピッチ大会 第10コマ（10:45～12:15）： ■公開シンポジウムに向けた準備
	（発表要旨提出） ●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/3（火）（予定）
	（発表スライド提出） ●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/4（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月7日 （土） （10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】（大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰 （16:00～17:00予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等	『後世への最大遺物・デンマーク国の話』（内村鑑三著、岩波文庫） 『ファースト&スロー』（ダニエル・カーネマン著、ハヤカワ文庫） 『サビエンス全史』（ユバル・ノア・ハラリ著、河出文庫） 『人を動かす』（カーネギー著、創元社） 『起業の科学 スタートアップサイエンス』（田代雅之著、日経BP社） 『僕の音楽武者修行』（小澤征爾著、新潮文庫） 『風の歌を聴け』『1973年のピンボール』『羊をめぐる冒険』（講談社文庫『村上春樹、講談社文庫』）
備考：優れたアウトプットを目指すなら、地道なインプットが不可欠です。その際に有効なツールの一つが書籍です。	

2024 年度「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施報告

【実施目的】

セルフキャリア発展ゼミは、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

【目標】

- ・ 新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
- ・ 学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
- ・ 新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
- ・ 持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

【2024 年度実施状況】

今年度のセルフキャリア発展ゼミは、5 月 18 日に第 1 部、6 月 22 日～23 日に第 2 部を学内で実施した。新渡戸カレッジオナーズプログラム在学生のほか、これまでセルフキャリア発展ゼミを履修した卒業生の OB・OG の 5 名が参加し、現在のキャリアに、新渡戸カレッジでの活動、特にセルフキャリア発展ゼミに参加した経験がどのような影響をもたらしたのかなどについて、履修生と共有した。

履修者数	学部		学年
合計 23 名	工学部	6 名	2 年生（17 名） 3 年生（6 名）
	理学部	4 名	
	農学部	4 名	
	経済学部	3 名	
	文学部	2 名	
	法学部	1 名	
	水産学部	1 名	
	獣医学部	1 名	
	教育学部	1 名	

*履修生 23 名のうち、「新渡戸学」単位取得者 20 名

実施日時	内容
5月18日	ゼミ第1部（学内ワークショップ）
6月22日～23日	ゼミ第2部（学内ワークショップ）
9月28日	フォローアップゼミ1回目（対面&Zoom・履修生任意参加）
11月9～14日	伴走グループMTG（Zoom・履修生任意参加・学生のみ）
12月14日	フォローアップゼミ2回目（学内ワークショップ・履修生任意参加）

【2024年度セルフキャリア発展ゼミの様子】

○第1部（5月18日）



○第2部（6月22日・23日）





○対面フォローアップ（12月14日）



【来年度について】

セルフキャリア発展ゼミのOB・OGの継続的な参加を含め、学内のワークショップだけでなく、6月の合宿も実施する予定である。

(2) 大学院カリキュラム

春ターム「グローバル実践科目Ⅰ」(チーム学習の基礎) 実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 谷博文 (大学院工学研究院)

授業担当教員 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)、Marina Lomaeva (高等教育推進機構)

ティーチングアシスタント (TA) :

Eric Keba Lukueta (大学院工学院)、池田拓誉 (大学院文学院)、

阿部麟太郎 (大学院文学院)

2. 履修者数 54 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組むことを通じて、協働への貢献に必要なとなる学生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「3+1 の力」に加え、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキングなどの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションなど個々の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ学生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会への影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 実施状況

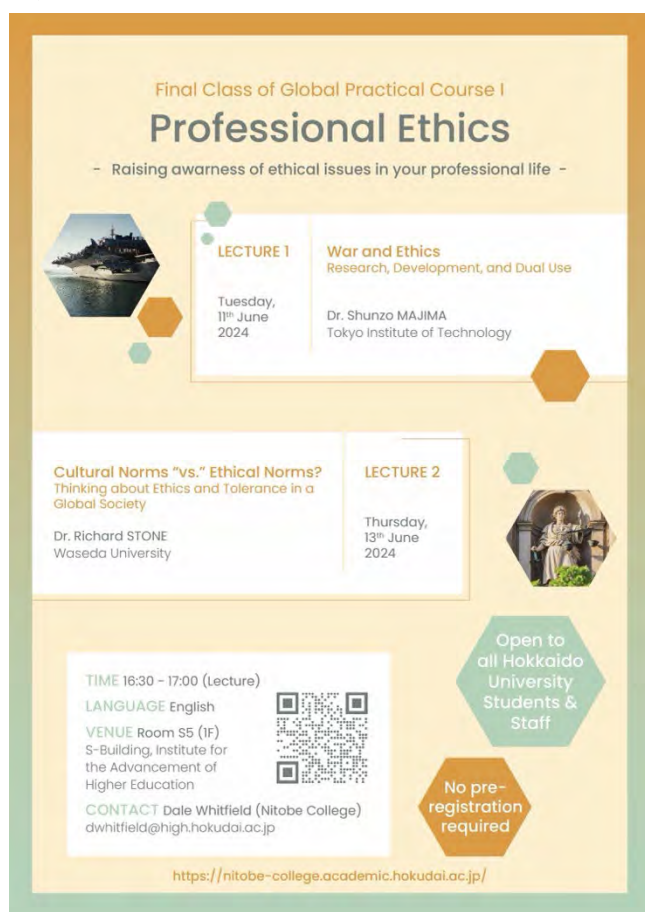
(1) 前年からの改善点を受け、また、履修生の多様な背景とそれに起因する課題を考慮しつつ、新渡戸カレッジの元教員であるマズル先生の提案を取り入れ、「異文化コミュニケーション」を主要な授業テーマの一つ(第3週目)とした。履修生からの反応は非常に好評で、また授業の雰囲気やチームワークが大幅に改善されたため、今後の授業にも継続して取り入れたいと思う。

(2) 今学期、新たに Facebook と Instagram のソーシャルメディアチャンネルを開設し、広報のため各授業の様子を毎週投稿した。特に、Instagram は学生を「タグ付け」することによって、フォロワーが増え、活発なコミュニティを築くことができた。多くの履修生が同級生に投稿を共有することで、広くプ

ログラムを周知することができた。さらに、コースの最終プレゼンテーションを録画し、新渡戸カレッジのウェブサイトに掲載することで、学生の成果を広く伝えることができた。

- (3) 過去の履修生より、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、リーダーシップ等のスキルについて、もう少し理論的に詳細な説明が欲しいという要望があったので、より深く学習したい学生のために、学術的・科学的な研究に基づいてこれらのスキルを説明したスタディガイドを作成し、配布した。
- (4) これまでは、最終プロジェクトのテーマは授業担当教員が決定していたが、大学院カリキュラムの4つの主要科目をより密接に結びつける新たな試みとして、前学期のオナーズプログラムの学生に授業に参加してもらった。オナーズプログラム修了生がフィールドワーク中に発見した課題を、履修生の問題解決の最終プレゼンテーションのテーマとすることで、グローバル実践科目と発展科目間での「学びの好循環」を作ることができた。
- (5) コロナ禍は、デジタル教育技術の発展だけでなく、高等教育における授業形態に対する学生のニーズにも大きな影響を与えた。そのため、今学期は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で行われ、対面での出席が難しい学生も参加できるようにした。さらに、すべての授業を録画し、出席できなかった学生向けにオンデマンド教材としてYouTubeで共有した。

5. ポスター・画像



Final Class of Global Practical Course I
Professional Ethics
 - Raising awareness of ethical issues in your professional life -

LECTURE 1
War and Ethics
 Research, Development, and Dual Use
 Tuesday, 11th June 2024
 Dr. Shunzo MAJIMA
 Tokyo Institute of Technology

Cultural Norms "vs." Ethical Norms?
 Thinking about Ethics and Tolerance in a Global Society
 Dr. Richard STONE
 Waseda University

LECTURE 2
 Thursday, 13th June 2024

TIME 16:30 - 17:00 (Lecture)
 LANGUAGE English
 VENUE Room S5 (1F)
 S-Building, Institute for the Advancement of Higher Education
 CONTACT Dale Whitfield (Nitobe College)
 dwhitfield@high.hokudai.ac.jp

Open to all Hokkaido University Students & Staff

No pre-registration required

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>



夏ターム「グローバル実践科目Ⅱ」(チーム学習の実践)実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 谷博文 (大学院工学研究院)

授業担当教員 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)、Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、
岩崎晋弥 (大学院地球環境科学研究院)、Johan Richard Edelheim (大学院メディア・
コミュニケーション研究院)

ティーチングアシスタント (TA) :

Eric Keba Lukueta (大学院工学院)、池田拓誉 (大学院文学院)、
阿部麟太郎 (大学院文学院)

2. 履修者数 54 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組む。「グローバル実践科目Ⅰ」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

(2) 授業目標

- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「グローバル実践科目Ⅰ」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

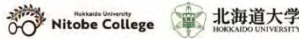
4. 実施状況

- (1) 前年からの改善点を受け、今学期のカリキュラムは第4週目にプロジェクトマネジメントのアジャイルアプローチを導入した。学生たちは中間発表で提示されたプロジェクトを「ウォーターフォール」方式から「アジャイル」方式へ変更した。内容の複雑さにもかかわらず、学生のフィードバックからはこのステークホルダー重視のアプローチに対する好意的な意見が多くみられ、今後いろいろな場面で活用したいという声があった。今後もうまくカリキュラムに取り入れていくためにさらに改善を重ねたい。
- (2) グローバル実践科目Ⅰの第2週目では、学生たちは「ベルビンのチームロール」について学び、チームで協働する際に自分の行動を最もよく表すと思われる9つの役割のうち2つを選択してもらった。その選択結果を考慮した上で、教員が学生のタイプにあわせてグローバル実践科目Ⅱのチームロールの選定を行ったところ、チームワークのバランスが高まった。学生のフィードバックからも有効性が確認できたので、今後のコースでも取り入れたい。
- (3) 今学期からデジタル・ホワイトボードを授業で活用した。この新しいICTは学生に積極的に受け入れられ、授業中の紙の使用量が大幅に減少した。
- (4) 以下、グローバル実践科目Ⅰから引き続き実施した：
 - 各授業の内容と写真をソーシャルメディアに投稿した。

- コースの最終プレゼンテーションを録画し、新渡戸カレッジのウェブサイトに掲載した。
- 学習をサポートするスタディガイドを作成し、学生に配布した。
- コース全体は「ハイブリッド形式」で行われ、録画したものを、YouTube にアップロードし、欠席した学生に共有した。

5. ポスター・画像





**FINAL PRESENTATION OF
GLOBAL PRACTICAL COURSE II**



OPEN TO THE PUBLIC

NO PRE-REGISTRATION REQUIRED

MORE INFORMATION



LOCATION
ROOM E303 (3F)
INSTITUTE FOR THE ADVANCEMENT OF HIGHER EDUCATION

LANGUAGE
ENGLISH

ENQUIRIES
NITOBECOLLEGEGRADUATES@HIGH.HOKUDAI.AC.JP

17:30 - 19:30
2024年7月30日 (火)

**FINAL PRESENTATION OF
GLOBAL PRACTICAL COURSE II**



OPEN TO THE PUBLIC

NO PRE-REGISTRATION REQUIRED

MORE INFORMATION



LOCATION
ROOM S5 (S-BUILDING, 1F)
INSTITUTE FOR THE ADVANCEMENT OF HIGHER EDUCATION

LANGUAGE
ENGLISH

ENQUIRIES
NITOBECOLLEGEGRADUATES@HIGH.HOKUDAI.AC.JP

17:30 - 19:30
2024年8月1日 (木)



春ターム「グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 谷博文（大学院工学研究院）

授業担当教員 : Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）、
Branislav Hazucha（大学院法学研究科）、Ricardo Alarcon Ospina（大学院農学研究科）

ティーチングアシスタント（TA）：Eman Hussein Elsayed Touliabah（大学院工学院）、
Suslov Artem（大学院文学院）

2. 履修者数 18 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「3+1 の力」（能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナル人材の育成を目標としている。この目標達成のために本科目では、専門性の異なる学生がチームを組み、それぞれの専門性の強みを活かした協働を通して、与えられた課題に対して解決策を提案する。原因、先行事例の調査や論拠となるデータを課題のコンテキストに即して分析し、異なるアイデアを統合して、独創的な解決案を創出する。また、ビジネスプラン等の検討を通して解決策を実行可能になるかを考え、対ステークホルダーを想定したプレゼンテーションを行う。

(2) 授業目標

- ・ 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント（役割の明確と実践）ができる。
- ・ 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- ・ 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- ・ 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- ・アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深めることができる。

4. 実施状況

- (1) 今年度は初回授業でグローバルな問題や SDGs について説明し、履修生に最終授業までの課題として problem with a global dimension(グローバルな視点／広がりを持つ問題)をチームで決めると指示した。その課題に取り組むために第 1～3 回の授業で creative problem-solving (創造的な課題解決)の方法や生産的協働のためのチームマネジメントについて講義し、各チームでその方法を応用する練習をさせた。また、各種業の終了後、履修生がチームワークの課題を分析し改善していくように各人に Team review and feedback (チームワークの振り返り) を Google Form (<https://forms.gle/68X8A9c7nMZC3qTT8>)で行わせた。その回答を毎週匿名化し、チーム毎にまとめたコメントを履修生が閲覧可能な一覧表に追記した (https://docs.google.com/spreadsheets/d/1TDM_URDx82b31sqzqt6LPYINzBLq6fOAEysLPCksZt8/edit?pli=1&gid=1106991401#gid=1106991401)。

- (2) Chat GPTをはじめ、2023 年度後半からの生成 AI の目覚ましい発展とそれに対する履修生の関心・試用に鑑み、部局担当教員 Ricardo OSPINA 先生に第 5 回の授業でその利用に関するガイダンスを行ってもらった。そのガイダンスは履修生にとって大いに参考になり、その後各チームでプロジェクトワークに役立っていた（その趣旨のコメントを履修生から数多く受けた；

<https://docs.google.com/document/d/1Cap4elOAcdfF641VTzCjiDNlpyQSaqaevF25RBN880aE/edit?usp=sharing>)。

- (3)アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深めるために、外部講師として Eric OFOSU-TWUM メンターを招聘し、第 6 回の授業で How to write a business plan をテーマとするチュートリアルを行ってもらった。そのチュートリアルでは各チームがそれぞれのプロジェクトに関する情報を Excel 表に入力し、アウトプットとしてビジネス計画の文章とテンプレートを用いたスライド資料が自動的に作成された。このチュートリアルは履修生に高く評価され、最終発表を準備するうえで大いに役立ったというコメントを履修生から数多く受けた

(https://docs.google.com/document/d/1Qhh1uO49YeUNWLkFVCZg8rdp-XhDyg_QqBSzH68fFfE/edit?usp=sharing)。

- (4) 最終授業には新渡戸カレッジ特別演習（セルフキャリア発展ゼミ、アントレプレナーシップ、デモラ（企業課題解決演習）、ハルトプライズ チャレンジ）の担当教員に参加してもらい、それぞれのコース紹介と履修生の最終発表に対するコメントをしてもらった。

5. 授業参加者の写真



春ターム「グローバル発展科目Ⅱ（課題発見の基礎と実践）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：谷博文（大学院工学研究院）

授業担当教員：Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）、
橋本 勝文（大学院工学研究院）

ティーチングアシスタント（TA）：Eman Hussein Elsayed Touliabah（大学院工学院）、
Suslov Artem（大学院文学院）

2. 履修者数 17 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、与えられたテーマについてフィールド調査によって収集した一次データを分析して、解決すべき問題の発見や自明とされる問題の批判的な検討を行う。また調査結果を的確にまとめて一般公開の場で発表し、プロジェクトの結果を社会（調査の協力者・対象者含む）に還元することによって、自らの専門性が持つ社会への影響力、専門職倫理への意識を高める。調査研究などアカデミックなものにとどまらず、すべてのプロジェクトは「問い」すなわち問題の設定からスタートする。あえて、問題発見をプログラムの締めくくりに取り組むことで、将来のキャリア形成に不可欠な「問うこと」の重要性を再認識し、意義のある問題を設定するために必要な能力を身につける。

(2) 授業目標

- ・ 意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。
- ・ 培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。
- ・ 調査の過程で発生する倫理的な問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。
- ・ 収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。
- ・ 調査・研究の成果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。

4. 実施状況

(1) コースワーク

例年より人文系履修生の比率が高い（17 名のうち 7 名）構成となったことを受け、社会系のロマーエヴァ特任助教と工学系の橋本准教授が、自らの専門領域の研究手法のうち分野横断の調査に相応しいものを紹介し、専攻の異なる学生チームのプロジェクトワークを指導した。人文系と工学系の TA も自らのフィールドワークやデータ分析の経験を共有した。履修生は 3 つのチームに分かれ、次のテーマで第 4 週の授業で研究計画を発表し、第 5～7 週に対面とオンラインでアンケート調査やインタビュー等を行った。フィールドワークは各チームで作成した計画に沿って行い、その進行やそれぞれのチームメンバーの貢献の記録をログの形で残した。

- ・ Career support for international students at Hokkaido University
- ・ Challenges of intercultural communication between Japanese and international students
- ・ “Ethical eating” and food wastage in Sapporo

Fieldwork plan and log ;

<https://docs.google.com/document/d/1Df4l6A8x1KevKdQ7HqXZeweR3eaLP5J2z2C0L6-8myk/edit?usp=sharing>

(2) メンターフォーラム

新渡戸カレッジ大学院プログラム改革を受け、メンターフォーラムの対象は 2024 年度以降廃止された基礎プログラムからオナーズプログラムへと転換した。その結果、2023 年度秋・冬タームの第 17 回メンターフォーラムに参加した履修生が再びメンターフォーラムに参加することになった。また、2024 年度 オナーズプログラム履修生のうち 1 名が函館キャンパスの大学院生だったため、メンターフォーラムをハイブリッド方式で開催することとなった。2 回目のメンターフォーラムもオナーズプログラム履修生にとって有意義なイベントとなるよう、フォーラムの公開部分を従来のメンター講演ではなくパネルディスカッションの形で行った。MC 役を務めた実行委員の学生は、パネルディスカッションを 1) Career building, 2) Job-hunting, 3) Contribution to global society と 3 部に分け、事前に対象のオナーズプログラム履修生から集めた質問と当日聴衆から受けた質問を交えつつ進行した。その結果、活発なディスカッションとなり、メンターからも聴衆からも好評を得た。メンター交流会も前年の基礎プログラム履修生より少人数のオナーズプログラム履修生が対象となったため、学生参加者が各メンターとの個別相談の機会を得て好評のコメントを寄せた。

(3) 外部講師として招待した萩野メンターによる講演

メンターフォーラムに参加した萩野メンターは同日、オナーズプログラム履修生を対象に「Process and Tips for Problem Finding」をテーマに授業を行った。自らの研究（カメルーンの狩猟採集生活者を対象としたフィールドワーク等）及び実務（コンサルティング）経験を活かし、産学それぞれの視点から課題発見課程について説明し、学生にグループワークの形でその実践を体験させた。

(4) 最終(公開)授業

新渡戸カレッジのラフェイ教頭と谷副校長補佐の他、DEI 推進室の徳武智世氏と 2020～22 年に北大人間知・脳・AI 研究教育センターの研究員だった Zlata Polyakova 氏（現職は BostonGene Japan の Program Alliance Manager）が参加した。徳武氏と Polyakova 氏は自らの海外留学・国際企業での勤務の経験を振り返り、日本人学生と国際留学生のコミュニケーション問題、北大における進路支援制度の課題、札幌市内の食品ロス問題をテーマとした学生チームの発表に対するコメントを寄せた。

5. ポスター・画像等

第 18 回（2024 年度第 1 回）新渡戸カレッジメンターフォーラム（2024 年 6 月 16 日）案内
<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/event/3065>

2024 年度春タームグローバル発展科目Ⅱの最終（公開）授業（2024 年 7 月 24 日）のポスター

Promoting diversity and sustainability

Come and comment!
Share your experience!

Multidisciplinary multicultural student team project presentations

Team 1
Career support for international students

Team 2
Challenges of intercultural communication in Japan

Team 3
"Ethical eating" and food wastage in Sapporo

Date 24 July 2024 (Wed)
17:30–19:30

Format Hybrid

Venue S5 (1F), S-Building,
Institute for the Advancement of
Higher Education

Language English

Join onsite (no pre-registration) or online
Register for online participation by 23 July
<https://forms.gle/8qo2z4rBsRMe4zMz9>

For inquiries: nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp

Hokkaido University
Nitobe College
Graduate Curriculum Honors
Program Open class



春・夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：セルフキャリア発展ゼミ（大学院）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：肖蘭（高等教育推進機構）

新渡戸カレッジ（大学院）担当：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

2. 履修者数 履修者なし

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

この授業は、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー・メンター）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
- 学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
- 新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
- 持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間：2024年5月18日(土)～6月23日(日)

曜日(時限)：集中

(2) 授業内容

今年度の本科目は、学内にて以下のスケジュールで行われた。フェローの講話のほか、これまでセルフキャリア発展ゼミに参加した卒業生のOB・OGも合宿に参加し、新渡戸カレッジでの活動、特にセルフキャリア発展ゼミに参加した経験が現在のキャリアにどのような影響をもたらしたのかなどについて、履修生と共有した。

- ゼミ第1部（5月18日）：オリエンテーション・アイスブレイキング・お互いを知る、キャリアモデルを知ろう、近未来の職業世界
- ゼミ第2部（6月22日～23日）：社会の雇用事情、新渡戸カレッジと私のキャリア、フェロー物語&学生交流、学生によるグループワーク、スキル評価、行動計画を立てる

夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：アントレプレナーシップ」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：前仲勝実（大学院薬学研究院）

新渡戸カレッジ責任教員：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

2. 履修者数 履修者なし

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

現在の急速に発展している世界では、さまざまな分野において企業間で激しい競争が繰り広げられている。その中で、課題を解決するための新しい案を作り出す能力は不可欠なスキルである。また、チームワークで協調し、より良い結果を提供する能力はすべての企業に必要なスキルである。本授業では学生に、解決策を視覚化し、チームで協働する方法を提供する。特にヘルスケア分野での世界で最も影響力のある課題について解決に取り組む。また本講義では、ビジネスモデルキャンパスの概念も紹介する。本講義を通して学生は、将来のスタートアップや、企業での新しい製品・サービスの立ち上げの際に使用されるビジネスモデルを視覚化することが可能になる。

(2) 授業目標

学生は以下の能力を身につける。

- ヘルスケア業界の最新トレンドについての理解
- ビジネスモデルと計画を視覚化するためのツールとしてビジネスモデルキャンパスの理解
- レゴシリアスプレイを利用して、アイデアや解決策の視覚化
- さまざまなバックグラウンドを持つチームメンバーと協力して、さまざまな解決策を立案
- 製薬業界のビジネスと創薬のプロセスの基本的な理解
- コミュニケーションスキルを高め、アイデアを異なる方法で提示
- 世界中のさまざまな国の研究者仲間と強力なネットワークを構築

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間：2024年8月8日(木)～9日(金)

曜日(時限)：集中

回数：全2回

場所：北海道大学 薬学部 管理研究棟 2階 N201・N202

(2) 授業内容

大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域と Hokkaido サマー・インスティテュート「創薬科学特別講義 II（バイオ・ヘルスケアアントレプレナーシップ・ワークショップ）」として開講しており、以下の講義と実践的なワークショップで構成されている。

1. はじめに、
2. 創薬開発のケーススタディ、

3. 医療機器開発のケーススタディ、
4. 起業家精神の紹介とスタートアップ企業のケーススタディ、
5. ビジネスモデルキャンバスの紹介、
6. アイデア創出ワークショップ、
7. グループワーク：ビジネスモデルの立案、
8. グループワーク：アイデアとプレゼンテーションの作成、
9. グループワークの最終発表

春・夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：デモラ（企業課題解決演習）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：金子純一（大学院工学研究院）

新渡戸カレッジ責任教員：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

授業担当教員：椎名希美（産学・地域協働推進機構）

2. 履修者数 履修者なし

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2ヶ月間、フード&メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

(2) 授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイデアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間：2024年4月6日(土)～5月22日(水) (1st バッチ)
：2024年8月3日(土)～9月29日(日) (2nd バッチ)

曜日(時限)：集中

回数：全5回(各バッチ)

場所：北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点、オンライン併用

(2) 授業内容

学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った。提案されたアイデアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約をするケースもある。1st、2nd バッチ参加企業と課題は以下のとおりである(2nd バッチは現在進行中)。



秋ターム「グローバル実践科目Ⅰ」（チーム学習の基礎）実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 伊藤 秀臣 (大学院理学研究院)

授業担当教員 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

ティーチングアシスタント (TA) :

Eman H. E. Touliabah (大学院工学院)、Artem Suslov (大学院文学院)

2. 履修者数 14 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「3+1 の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理)を身につけたプロフェッショナルな人材に育成することを目指している。そのための準備段階として本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組むことを通じて、協働への貢献に必要なとなる学生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「3+1 の力」に加え、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキングなどの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションなど個々の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ学生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会への影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 実施状況

(1) コースワーク

2023 年度の基礎プログラムの内容を大幅に充実させ、履修生にチームワークに加え、学術文章やメディア報道に含まれる論理的な問題を分析してもらい、文章構造を論理的に再構築するグループワークを通じて、多様な実践課題に取り組んでもらった。また、履修生にとって初めての体験となるディベートの授業では、身近な社会問題の中からテーマを選ばせ、ディベートの構造を詳細に説明した上で、昨年度の経験を踏まえて、各段階における準備時間を増やした。さらに、プレゼンテーションスキルの指導においては、視聴者中心のプレゼンテーション (audience-focused presentation, AFP) に重点を置き、スライド資料の作成に偏りがちな履修生の意識改革を促すことを意識した。

履修生はグループワークにおいて NPF のチームワークページに加え、電子ボード（Miro boards）も活用した。また、各授業後には履修生に NPF へコメントや学習過程の自己評価を入力してもらうとともに、Google Forms を用いてチームワークで直面した課題やその解決策についてもフィードバックを記録してもらった。

2023 年度の基礎プログラム「大学院基礎科目Ⅰ・Ⅱ」（2023 年 11 月～2024 年 1 月）に続き、札幌市国際部に設置されている世界冬の都市市長会（WWCAM）事務局との連携を活かし、中間発表と最終発表のテーマを冬の都市生活に関する課題の中から履修生チームが選んだ。履修生は 4 つのチームに分かれ、チームワーク、リーダーシップ、創造的思考、批判的思考の基礎を学びながら、以下のテーマに基づいた提案の立案・具体化を通じてそれらのスキルを実践した。

- How to improve winter transportation in Sapporo
- Winter Challenges in Sapporo: Mental and Physical Health Issues
- Inclusive Winter: Enhancing Safety and Accessibility at Hokkaido University
- Developing winter tourism in Sapporo

最終レポートではチームワーク、リーダーシップ、創造的思考、批判的思考、視聴者中心のプレゼンテーションのスキルを身につける段階で直面した課題や発見、並びに講師と TA の指導の改善すべき点について書いてもらった。

(2) 最終授業

外部講師とコメンテーターとして北海道総合商事株式会社営業部主任のモズゴヴォイ イワン氏と北大北極域研究センターのサウナワラ准教授を招へいた。モズゴヴォイ氏は、北海道総合商事株式会社が関わっていた日本国内の海外製温室建設プロジェクトを事例に、サウナワラ氏は、日本市場への進出を目指す北欧 3 国の企業と日本側の官民団体との連携を事例に、多国籍チームでの協働やリーダーシップの実践と難題について説明した。

5. ポスター・画像

最終授業に招聘した外部講師との集合写真



冬ターム「グローバル実践科目Ⅱ」（チーム学習の実践）実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 伊藤 秀臣 (大学院理学研究院)

授業担当教員 : 横田 義史 (大学院経済学研究院)、Marina Lomaeva (高等教育推進機構)

Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

ティーチングアシスタント (TA) :

Eman H. E. Touliabah (大学院工学院)、Artem Suslov (大学院文学院)

2. 履修者数 13 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「3+1 の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理)を身につけたプロフェッショナルな人材に育成することを目標としている。そのための準備段階として本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組むことを通じて、協働への貢献に必要な学生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。本科目では、「グローバル実践科目Ⅰ」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

(2) 授業目標

- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「グローバル実践科目Ⅰ」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

4. 実施状況

(1) コースワーク

本コースでは、プロジェクトマネジメントの基礎と実践を学ぶことで、博士課程への進学を目指す履修生と就職を志望する履修生の双方にとって有益な内容を提供した。また、2023 年度の基礎プログラム「大学院基礎科目Ⅰ・Ⅱ」(2023 年 11 月～2024 年 1 月)に続き、札幌市国際部に設置されている世界冬の都市市長会(WWCAM)事務局との連携を活かし、冬の都市生活に関する課題を履修生チームに提示した。履修生は3つのチームに分かれ、プロジェクトマネジメントの基礎を学びながら、以下のテーマに基づいた提案の立案・具体化を通じてそれらのスキルを実践した。

- Improving winter transportation in Sapporo with an app and snow bicycle rental service (Hokkaidoor)
- Wellness facility for mental health support for Sapporo citizens suffering from winter depression (Happy Ray Cafe)
- Inclusive Winter: Enhancing Safety and Accessibility at Hokkaido University

(2) 専門職倫理

第2週の授業では、海洋研究開発機構（JAMSTEC）北極環境変動総合研究センターの技術主任・木村元氏を外部講師として招聘した。ステークホルダーマッピングや利害調整メカニズム、SDGs 達成に向けた倫理課題への理解を深めることを目的とし、木村氏が開発した北極ボードゲームを用いた履修生のロールプレイ形式で授業を実施した。

(3) 世界冬の都市市長会（WWCAM）第20回市長会議における発表及び同会議に参加したベースロードパワージャパン株式会社による招待講演

2024年12月19日に札幌市で開催されたWWCAM第20回市長会議の全体会議において、履修生が中間発表を基にしたプレゼンテーションを行った（任意参加）。本会議は秋元市長が司会を務め、新渡戸カレッジを北海道大学の優れた特別教育プログラムとして紹介した。発表後、秋元市長や加藤市長室長に加え、フィンランド・ロヴァニエミ市長、韓国・麟蹄郡（インジェ）町長などから多くの質問やコメントが寄せられた。

また、19日午後の第3週授業（中間発表）には、市長会議の政策研究会「冬の都市におけるエネルギー」で報告を行ったベースロードパワージャパン株式会社¹ 事業開発部 横山亮部長を外部講師として迎え、プロジェクトマネジメントにおけるステークホルダー管理とリスク管理について、同社の事業経験を交えて講演いただいた。

なお、冬季関連課題に関する履修生のチームワークおよびWWCAMへの参加については、プレプログラム・オーナーズプログラムの履修生および修了生と共同で英語論文を執筆し、2025年2月開催予定の第39回北方圏国際シンポジウム@紋別にて発表予定である。

(4) 最終（公開）授業

第8週の授業には、新渡戸カレッジのラフェイ教頭および谷副校長補佐に加え、北海道庁 中島竜雄局長（北大OB）、北大工学研究院 森太郎教授、北極域研究センター サウナワラ准教授が参加し、各チームの発表に対してフィードバックを提供した。また、外部講師として中島局長が新千歳空港の除雪対策と北海道における冬季アドベンチャートラベルについて、森教授が寒冷地住宅の断熱性能と室内環境が健康に与える影響について講演を行った。両講演とも、実務経験に基づいた具体的な事例を交えたものであり、履修生から多くの質問やNPFを通じたコメントが寄せられた。

5. ポスター・画像

- ・12月12日の専門職倫理の授業における北極ボードゲームでステークホルダーについて学ぶ様子
- ・世界冬の都市市長会（WWCAM）第20回市長会議の全体会議における秋元市長との集合写真



- ・ 2024 年度冬タームグローバル実践科目 II の最終（公開）授業（2025 年 1 月 30 日）のポスター



Safe and warm in winter Hokkaido

Students' proposals
on maintaining
**accessibility &
health in winter**

**Come and share
your ideas**

**30 January (Thu),
17:00-19:30, Room S11**
(2F), S-Building, Institute for the
Advancement of Higher Education

Expert talks
**Winter
tourism in
Hokkaido**
**Warm homes
in winter**

In English

Taro Mori
Hokkaido University

Tatsuo Nakajima
Hokkaido Government

Contact: NitobeCollegeGraduates@high.hokudai.ac.jp

秋ターム「グローバル発展科目Ⅰ」（課題解決の実践）実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : 伊藤秀臣（大学院理学研究院）

授業担当教員 : Bomme Gowda Siddabasave Gowda（大学院保健科学研究院）、
Travis Scrimshaw（大学院理学研究院）、Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）、
Marina Lomaeva（高等教育推進機構）

ティーチングアシスタント（TA）:

阿部麟太郎（大学院文学院）、楊梓桐（大学院環境科学院）

2. 履修者数 28 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、国際的な課題に取り組むチームプロジェクトを通じて、プレプログラム科目で習得した知識とスキルをさらに深化させ、課題解決能力を養うことを目的とする。

(2) 授業目標

- 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント（役割の明確と実践）ができる。
- 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深めることができる。

4. 実施状況

(1) 新渡戸カレッジ学部修了生のうち、Cum Laude 以上の学生がプレプログラム科目を受講せずにオーナーズプログラムに参加する可能性があることを踏まえ、最初の 5 週間にアジャイル型プロジェクトマネジメント（PM）に基づく課題解決手法であるデザインスプリントフレームワークを取り入れることとした。この手法は、ステークホルダーを中心とした簡潔なアプローチであり、既存の PM 知識に依存しない新しい課題解決手法であるため、プレプログラムでプロジェクトマネジメントを受講していない学生でも授業で不利にならないよう配慮された。

(2) 学生の起業スキルを効果的に育成するため、最終プレゼンテーションの形式を「プロジェクト提案」から「ビジネスピッチ」に変更した。第 6 週では、学生が提案した解決策を投資家に提示する際、より実現可能なビジネスアイデアとするために、ビジネスピッチの重要な 10 要素を提示した。最終プレゼンテーションでは、外部講師として参加した黒田メンターやゲストから、学生のビジネスピッチが実際のビジネスやスタートアップの分野で高く評価される内容だと高い評価を受けた。

(3) 上記で述べた科目内容の変更による学生の学習成果を確認するため、最終自己評価レポートの質問を以下のように設定した：(1) プロジェクトチーム内での自身の役割、具体的な貢献、および課題について

て具体例を交えて説明すること。(2) チームでデザインスプリントプロセスをどのように活用して解決策を考えたか、プロセス中に直面した具体的な課題とその対処方法について説明すること。さらに、(3) 新渡戸カレッジのプレプログラムおよびオーナーズプログラムを通じて得た全体的な成長を振り返り、深く理解するための質問を追加した。

5. ポスター・画像



冬ターム「グローバル発展科目Ⅱ」（課題発見の基礎と実践）実施状況

1. 担当教員

科目責任者：伊藤 秀臣（大学院理学研究院）

授業担当教員：三浦 篤志（大学院理学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

ティーチングアシスタント（TA）：

Eman Hussein Elsayed Touliabah（大学院工学院）、

Ahmed Abd Alraheem Suliman Esaa（大学院工学院）

2. 履修者数 26 名

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本科目では、与えられたテーマについてフィールド調査によって収集した一次データを分析して、解決すべき問題の発見や自明とされる問題の批判的な検討を行う。また調査結果を的確にまとめて一般公開の場で発表し、プロジェクトの結果を社会（調査の協力者・対象者含む）に還元することによって、自らの専門性を持つ社会への影響力、専門職倫理への意識を高める。調査研究などアカデミックなものにとどまらず、すべてのプロジェクトは「問い」すなわち問題の設定からスタートする。あえて、問題発見をプログラムの締めくくりに取り組むことで、将来のキャリア形成に不可欠な「問うこと」の重要性を再認識し、意義のある問題を設定するために必要な能力を身につける。

（2）授業目標

- 意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。
- 培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。
- 調査の過程で発生する倫理的な問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。
- 収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。
- 調査・研究の成果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。

4. 実施状況

（1）コースワーク

例年どおり、社会系のロマーエヴァ特任助教と理学系の三浦准教授が、多様な専攻背景を持つ履修生に対し、分野横断的な調査に適した研究手法を紹介し、学生チームのプロジェクトワークを指導した。今年度は理系・工学系の履修生が多かったため、アンケート調査やインタビューなどの社会系の調査手法に触れる機会が特に好評であり、履修生はこれらの手法を積極的に活用した。

履修生は4チームに分かれ、冬の都市生活に関する課題をテーマに選定し、第4週の授業で研究計画を発表した。その後、第5～7週にかけて、対面およびオンラインでのアンケート調査やインタビューを実施した。このプロジェクトは、2023年度に開始した札幌市国際部との連携の一環として進められた。

- Winter Tourism in Sapporo: Identifying the Challenges for Foreign Tourists

- Accessibility of commuting to and within Hokkaido University in winter for persons with disabilities
- Mental Health: Winter Depression in Hokkaido University
- Satisfaction with Winter Transportation at Hokkaido University

冬の都市生活の課題に詳しい北大北極域研究センターのサウナワラ准教授を招き、履修生が選んだテーマに関連する講演を行っていただいた。また、各チームの研究計画に対するコメントや、改善に向けた具体的な助言も提供していただいた。

フィールドワークは、各チームが作成した計画に基づいて実施し、その進行状況やメンバーの貢献をログとして記録した。担当教員と TA は、ログを活用して進捗を追跡しつつ、ミーティングのために教室にきた各チームに対し、適宜コメントを提供した。

(2) メンターフォーラム

前期の新渡戸カレッジメンターフォーラムに続き、実行委員の学生が MC を務め、パネルディスカッションを進行した。事前にオナーズプログラム履修生から集めた質問に加え、当日聴衆から寄せられた質問も交えながら進行した結果、活発な議論が展開され、メンターおよび聴衆から高い評価を得た。その後、学生参加者は各メンターとの個別相談の機会を得ることができ、多くの好意的なコメントが寄せられた。

(3) 外部講師として招待した萩野メンターによる講演

メンターフォーラムに参加した佐賀メンター（新渡戸カレッジ修了生）は、同日にオナーズプログラム履修生を対象とした授業を行い、「Problem-finding for Business」をテーマに講義を担当した。日本の大手企業におけるグローバル人材育成担当としての実務経験を活かし、企業における課題発見のプロセスと、それを促進するチームワークの重要性について解説した。さらに、学生がグループワークを通じて実践的に学べるよう、課題発見のプロセスを体験する演習を取り入れ、実務に即した学びの機会を提供した。

(4) 最終(公開)授業

新渡戸カレッジのラフェイ教頭に加え、札幌市国際部の佐藤課長、伊藤係長（ともに北大 OB）、および国際交流員の Tairi 氏（ミュンヘン市）が参加した。佐藤課長、伊藤係長、Tairi 氏は、札幌市職員および冬の都市の住民という視点から、各チームの発表に対してコメントを提供するとともに、札幌市国際部が事務局を務める世界冬の都市市長会（WWCAM）の取り組みを紹介した。これにより、冬の都市が抱える共通課題の普遍性や国際交流の重要性について、学生の理解を深める機会となった。

5. ポスター・画像

第 19 回（2024 年度第 2 回）新渡戸カレッジメンターフォーラム（2024 年 12 月 14 日）案内
<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/event/4113>

2024 年度冬タームグローバル発展科目 II の最終（公開）授業（2025 年 1 月 22 日）のポスター



秋・冬ターム「新渡戸カレッジ特別演習：デモラ（企業課題解決演習）」実施状況

1. 実施日時

期間 : 2024 年 10 月 12 日(土)～11 月 30 日(土) (3rd バッチ)
曜日(時限) : 集中
回数 : 全 5 回
場所 : 北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点

2. 実施体制

科目責任者 : 金子純一（大学院工学研究院）
新渡戸カレッジ担当：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）
授業担当教員 : 椎名希美（産学・地域協働推進機構）

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2 ヶ月間、フード&メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

(2) 授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイデアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 評価方法

授業への参加・貢献度（発表・ディスカッション等）：40%、課題提出（プラン最終版）：30%、最終プレゼンテーション：30%

5. 授業内容および実施状況

学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った。提案されたアイデアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約をするケースもある。3rd バッチ参加企業と課題は以下のとおりである。

6. 受講者及び成績

受講者：なし

7. 参考資料

3rd バッチ参加企業と課題



秋・冬ターム「新渡戸カレッジ特別演習：ハルトプライズチャレンジ」実施状況

1. 実施日時

期間 : 2 学期集中 (2024 年 11 月～2025 年 1 月)

2. 実施体制

科目責任者 : 谷博文 (大学院工学研究院)

授業担当教員 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

ハルトプライズ (Hult Prize) は、SDGs などの社会的課題を解決するための起業アイデアを争う国際的な学生コンペティションであり、数名からなる学生チームが毎年提示される課題に挑戦している。例年、10月頃にクリントン元アメリカ大統領によって課題が提示され、キャンパスや地域での予選会とそれに関わる各種セミナーやワークショップ、プログラムへの参加を経て、翌年 9 月頃開催の世界大会で優勝チームが決定する。優勝チームには起業資金として 1 万ドルが与えられる。この演習授業では、ハルトプライズへの挑戦 (ハルトプライズへのエントリー；チームによるプロジェクト立案と発表、各種イベントへの参加) を通じて、新渡戸カレッジが育成するリーダー人材の中で、特に「チェンジリーダー」になるための実践的取り組みを学ぶ。また、SDGs、ソーシャルビジネス、起業家精神への理解を深めるとともに、社会にインパクトを与えるプロジェクト構想の立案方法を体得する。

(2) 授業目標

- ハルトプライズ北海道大学キャンパス大会に参加し、課題への取り組みと起業アイデアの立案、関連セミナーへの参加を通じて、現代社会の問題に対する高度な共通認識を持ち、その解決に向けたチームでの取り組み方法を習得する。
- 課題解決に求められる革新的なアイデアを創出し、それをビジネスとして具体的に立案する方法を身につける。
- 説得力のあるプレゼンテーションスキルを習得する。
- ソーシャルビジネスについて理解するとともに、起業家精神を身につける。

4. 評価方法

Hult Prize に関する講義やイベントへの積極的な参加及び最終レポートにより評価を行う。新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムにて開講する「新渡戸カレッジ特別演習」としての単位修得には以下の 2 つの条件を満たすことが必要である。

- (1) 自分の属するチームがハルトプライズ学内予選に出場すること
- (2) 最終レポートを提出すること

5. 授業内容

ハルトプライズ北海道大学は、学生からなる運営チームにより、下記の内容で実施される。

- 今年度のハルトプライズター、ハルトプライズ・チャレンジに関連する SDGs への理解
- ソーシャルアントレプレナー(起業家)とは
- ビジネス構想演習
- 英語プレゼンテーション演習
- ハルトプライズ学内選抜大会 (全員参加)

- チェンジリーダーについて
- 振り返りと次へのアクション

2024/2025 年の Hult Prize では、昨年度に続いて単独のテーマに絞らずに（ただし、SDGs の少なくとも一つに沿ったテーマ）「UNLIMITED!」と題して開催されている。

6. 受講者及び成績

受講者：なし

2024年度新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム春入校式を開催

投稿日: 2024-04-23

履修生向け（大学院）

2024年4月20日（土）高等教育推進機構にて入校式が開催され、20名が新渡戸カレッジに入校しました。

入校式には、弐 和順副校長、ラ フェイ ミシェル教頭、谷 博文副校長補佐、伊藤 秀臣 教育支援責任者、新渡戸カレッジ教員が出席しました。

始めに弐 副校長からご挨拶をいただき、その後、関係教員・メンターの紹介がありました。

その後、プログラムを代表して陳銘崢さんが、オナーズプログラムへの意気込みを語りました。



第18回（令和6年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院カリキュラムでは、6月16日（日）に高等教育推進機構において、第18回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流

を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部として「Career Building and Entrepreneurship Opportunities for Degree Holders」のテーマで、5名のメンターによるパネルディスカッションがありました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行

う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくか等について、貴重な知見を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



パネルディスカッションの様子



集合写真

新渡戸カレッジ修了式を挙行了しました

投稿日: 2024-09-20

入校希望者向け（大学院） 履修生向け（大学院）

令和6年度新渡戸カレッジ修了式を9月19日（木）に高等教育推進機構にて行い、留学生9名を含む、16名が修了しました。

はじめに、ラフェイ教頭から修了生代表に修了証書が授与されました。続いて、修了生代表の挨拶として、カチュリンさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

■ 優秀賞受賞者

陳 銘崢（理学院）

孫 言（国際広報メディア・観光学院）



修了証書の授与



修了生代表による挨拶

令和6年度新渡戸カレッジ入校式を開催

10月5日（土）、新渡戸カレッジ入校式を高等教育推進機構にて開催し、学部カリキュラム180名（合格者181名）、大学院カリキュラム28名（合格者33名）の計208名が入校しました。

今年度から新渡戸カレッジのプログラムが変わり、これに伴い学部カリキュラムの入校式についても開催時期が5月から10月に変更となりました。

入校式では、寶金清博校長（北海道大学総長）及び杉江和男副校長（校友会エルム会長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役員、学部長・学院長、フェロー・メンターの紹介が行われ、フェローを代表して大友俊彦さん、メンターを代表して石川憲一さんによる挨拶がありました。学生からは、学部カリキュラム入校生を代表して佐藤

拓さん、大学院カリキュラム入校生を代表して三岡莉子さんが挨拶を行いました。最後に、令和5年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞ゼミ（伊藤ゼミ）の成果発表が行われ、式は無事に終了しました。

（学務部教育推進課）



寶金校長の挨拶



佐藤さんの挨拶



三岡さんの挨拶



公開シンポジウム学生大賞ゼミ 成果発表

新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施

12月7日（土）、高等教育推進機構において、「新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会」を開催しました。このシンポジウムは、「新渡戸カレッジ」独自の授業科目である「新渡戸学（フェローゼミ）」の成果報告を行うものです。当日は、新渡戸カレッジ校長代理の山本文彦理事・副学長からの挨拶の後、社会課題の解決を目指す6ゼミの代表グループと、学生企画として1グループの合計7グループが、持続可能な社会の実現を目指した提言や成果報告を行いました。

今年度のシンポジウムでは、新渡戸カレッジ生が情熱溢れる6名のフェローと、本学支援教員、チューター（新

渡戸カレッジ所属の上級生）のサポートを受けながら、ユニークで分かりやすい成果報告に努めた発表が多く見られました。続くフェローゼミ履修済みの上級生で構成されている学生企画の発表からは、獣医学研究院の坪田敏男教授による特別講義や、旭川市内の各施設・団体（川村カトアイヌ記念館、NPO法人「もりねっと北海道」、旭山動物園、旭川市役所）のご協力により視座を高め、学びを深めた様子がうかがえました。

それぞれの発表毎に新渡戸カレッジ生の活発な質疑応答が交わされ、出席者が会場とオンライン上で見守る中、盛会のうちに終えることができました。

イベントの最後に新渡戸カレッジ副校長の弐 和順副学長より発表されたフェローゼミ学生大賞受賞グループは、野菜摂取に関するテーマで令和7年度の新渡戸カレッジ入校式の際、新入校生を前に再び発表する予定です。

最後に、フェローゼミ及び学生企画の発表をご指導いただいた各フェロー及び支援教員、新渡戸カレッジへのご寄附を賜りました皆様、その他ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

（学務部教育推進課）



フェローゼミ発表の様子



学生企画発表の様子



学生大賞を受賞した大友ゼミのメンバーと
山本理事・副学長（右から4人目）と弐副学長（左）

第19回（令和6年度第2回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院カリキュラムでは、12月14日（土）に高等教育推進機構において、第19回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより具

体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部では「Job-hunting tips for degree holders : Valued skills and experience」のテーマで講演会とパネルディスカッションを行い、5名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でお話いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターへ自由に質問し対話を行

う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は、大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な知見を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



石川憲一メンターによる講演の様子



パネルディスカッションの様子

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を3月25日（火）に高等教育推進機構にて挙行了。修了式には修了生17名のうち12名が出席し、寶金清博校長（総長）、山本文彦校長代理（理事・副学長）、弐 和順副校長、杉江和男副校長、ラ フェイ・ミシェル教頭及び新渡戸カレッジ関係教職員から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、工学部情報エレクトロニクス学科卒業の新田

敦之さんに寶金校長から修了証書が授与されました。次に寶金校長が挨拶し、所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、経済学部経営学科卒業の近松真帆さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会

エルム会長でもある杉江副校長と新渡戸カレッジフェローの森 順子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



寶金校長の挨拶



修了生代表による挨拶



出席者による記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙行

令和6年度新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を3月19日（水）に高等教育推進機構にて執り行いました。

今年度は、留学生3名を含む25名が修了しました。はじめに、弐 和順副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。

引き続き、弐副校長の挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で逞しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、「オ

ナーズプログラムで、修得した知識やスキルの応用と発展をめざし、高度な専門性とそれらを「活かす力」を存分に発揮して、グローバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表のデ オカンボ マシュー セルナさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて

挨拶を行い、式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）

井上 敦子（生命科学院）

デ オカンボ マシュー セルナ（理学院）

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



修了生代表による挨拶

8 新渡戸カレッジ 入校者・修了者・在籍者の数

(1) オナーズプログラム 学部カリキュラム入校者数、学部教育コース修了者数

① 学部カリキュラム入校者数 (令和6年10月)

令和6年度		1年次	2年次	計
		162	19	181
内 訳	総合文系	9	—	9
	総合理系	53	—	53
	文学部	18	2	20
	教育学部	6	0	6
	法学部	18	2	20
	経済学部	13	3	16
	理学部	3	0	3
	医学部医学科	2	0	2
	医学部保健学科	6	0	6
	歯学部	1	0	1
	薬学部	0	0	0
	工学部	17	7	24
	農学部	6	3	9
	獣医学部	3	0	3
	水産学部	7	2	9
	現代日本学プログラム	0	0	0

② 学部教育コース修了者数 (令和7年3月)

令和6年度		最終学年 在籍者	修了者
		62	17
内 訳	文学部	8	1
	教育学部	1	0
	法学部	8	2
	経済学部	5	1
	理学部	2	0
	医学部医学科	1	1
	医学部保健学科	2	1
	歯学部	1	1
	薬学部	1	0
	工学部	16	5
	農学部	10	4
	獣医学部	1	0
	水産学部	6	1

➡

称号授与者数	
Summa cum Laude (通算 GPA 上位 15%以内 TOEFL-iBT100 点相当以上)	2
Magna cum Laude (通算 GPA 上位 30%以内 TOEFL-iBT90 点相当以上)	4
Cum Laude (通算 GPA 上位 50%以内 TOEFL-iBT80 点相当以上)	7
Associate (上記以外)	4

(2) オナースプログラム大学院カリキュラム（入校者数、修了者数）

① 入校者数（令和6年4月）及び修了者数（令和6年9月）

令和6年度		4月入校者数	履修継続者数	9月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		17	0	16	1	0
内 訳	文学院	2	0	2	0	0
	法学研究科	0	0	0	0	0
	経済学院	1	0	1	0	0
	教育学院	0	0	0	0	0
	国際広報メディア・観光学院	2	0	2	0	0
	公共政策学教育部	2	0	2	0	0
	医学院	0	0	0	0	0
	保健科学院	0	0	0	0	0
	情報科学院	0	0	0	0	0
	工学院	4	0	3	1	0
	総合化学院	0	0	0	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	0	0	0	0	0
	水産科学院	1	0	1	0	0
	環境科学院	2	0	2	0	0
	国際食資源学院	0	0	0	0	0
	理学院	1	0	1	0	0
	生命科学院	2	0	2	0	0

② 入校者数（令和6年10月）及び修了者数（令和7年3月）

令和6年度		10月入校者数	履修継続者数	3月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		26	1	25	2	0
内 訳	文学院	0	0	0	0	0
	法学研究科	0	0	0	0	0
	経済学院	1	0	1	0	0
	教育学院	0	0	0	0	0
	国際広報メディア・観光学院	2	0	2	0	0
	公共政策学教育部	1	0	1	0	0
	医学院	1	0	1	0	0
	保健科学院	1	0	0	1	0
	情報科学院	2	0	2	0	0
	工学院	4	1	4	1	0
	総合化学院	2	0	2	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	3	0	3	0	0
	水産科学院	0	0	0	0	0
	環境科学院	2	0	2	0	0
	国際食資源学院	2	0	2	0	0
	理学院	2	0	2	0	0
	生命科学院	3	0	3	0	0

(3) 在籍者数

①－1 学部教育コース在籍者数

令和6年4月現在

令和6年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計
総合文系	0	—	—	—	—	—	0
総合理系	1 ^{注)}	—	—	—	—	—	1
文学部	0	10	12	8	—	—	30
教育学部	0	3	4	1	—	—	8
法学部	0	8	8	8	—	—	24
経済学部	0	15	10	5	—	—	30
理学部	0	17	11	2	—	—	30
医学部医学科	0	7	3	2	1	1	14
医学部保健学科	0	1	2	2	—	—	5
歯学部	0	0	0	1	2	1	4
薬学部	0	3	0	0	0	1	4
工学部	0	30	26	16	—	—	72
農学部	0	26	12	10	—	—	48
獣医学部	0	2	5	2	1	1	11
水産学部	0	6	7	6	—	—	19
現代日本学 プログラム課程	—	0	0	0	—	—	0
合 計	1	128	100	63	4	4	300

注) 1年次1名：留年者（基礎プログラム修了者でオーナーズプログラム合格者）

①－2 学部カリキュラム、学部教育コース籍者数

令和6年10月現在

令和6年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計
総合文系	9	—	—	—	—	—	9
総合理系	54	—	—	—	—	—	54
文学部	18	12	12	8	—	—	50
教育学部	6	3	4	1	—	—	14
法学部	18	10	8	8	—	—	44
経済学部	13	18	10	5	—	—	46
理学部	3	17	11	2	—	—	33
医学部医学科	2	7	3	2	1	1	16
医学部保健学科	6	1	2	2	—	—	11
歯学部	1	0	0	1	2	1	5
薬学部	0	3	0	0	0	1	4
工学部	17	37	26	16	—	—	96
農学部	6	33	12	10	—	—	57
獣医学部	3	2	5	2	1	1	14
水産学部	7	8	7	6	—	—	28
現代日本学 プログラム課程	—	0	0	0	—	—	0
合 計	163	147	100	63	4	4	481

②大学院教育コース在籍者数

令和6年度	令和6年4月現在 (令和6年4月入学)	令和6年10月現在 (令和6年10月入学)
文学院	2	0
法学研究科	0	0
経済学院	1	1
教育学院	0	0
国際広報メディア・ 観光学院	2	4
公共政策学教育部	2	1
医学院	0	1
保健科学院	0	1
情報科学院	1	2
工学院	6	5
総合化学院	0	2
医理工学院	0	0
農学院	0	4
水産科学院	1	0
環境科学院	2	2
国際食資源学院	0	2
理学院	1	4
生命科学院	2	4
合計	20	33

令和7年3月25日新渡戸カレッジ修了式（学部）



校長祝辞



校友会エルム会長祝辞



代表フェロー 激励のことば

9 主な就職先、修了者進路（2023 年度）

2023(令和 5)年度		学部教育コース修了生	大学院教育コース修了生
就 職	民間企業等	1 3	6
	官公庁	1	0
進 学	本学大学院	1 5	1 1
	他大学大学院（国内）	1 0	0
	他大学大学院（海外）	3	0
その他	在学中（本学大学院）	－	6 8
	就職準備	3	5
計		4 5	9 0

※ 令和 6 年度から大学全体の進路情報をもとに作成している（毎年 8 月頃集計）ため、報告が年度遅れとなる。



2024(令和 6) 年 4 月 9 日 新渡戸カレッジ大学院カリキュラム秋入校説明会



2025(令和 7) 年 3 月 19 日 新渡戸カレッジ修了式（大学院）

10 新渡戸カレッジ奨学金支給状況一覧（令和6年度）

1. 新渡戸カレッジ（海外留学）奨学金

（1）オナーズプログラム学部カリキュラム

留学区分	給付人数(人)	給付額(円)
国際インターンシップ	11	890,000
学部レベル短期留学	8	752,000
交換留学	27	10,401,500
計	46	12,043,500
～ 参考 ～ 令和5年度合計	43	8,764,000

（2）オナーズプログラム大学院カリキュラム

留学区分	給付人数(人)	給付額(円)
国際インターンシップ	0	0
大学院レベル短期留学	3	224,000
交換留学	1	336,000
計	4	560,000
～ 参考 ～ 令和5年度合計	1	240,000

2. 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム奨学金

（1）給付人数及び給付額

学期	給付人数(人)	1名あたりの給付額(円)	給付額合計(円)
第1学期	13	200,000	2,600,000
第2学期	17	200,000	3,400,000
計	30		6,000,000
～ 参考 ～ 令和5年度合計	25		5,000,000

（2）受給者の所属大学院

学期	所属大学院、人数
第1学期	文学院2名 国際広報メディア・観光学院2名 公共政策学教育部2名 工学院4名 生命科学院1名 環境科学院1名 水産科学院1名
第2学期	経済学院1名 国際広報メディア・観光学院2名 公共政策学教育部1名 医学院1名 保健科学院1名 工学院2名 農学院3名 環境科学院1名 国際食資源学院2名 理学院1名 生命科学院2名

1 1 留学の状況

【新渡戸カレッジにおける海外留学の目的】

北海道大学の「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」および「実学の重視」という4つの基本理念と新渡戸稲造の精神に基づき、海外において高い倫理観と豊かな人間性をもった自律的な個人の確立と、論理的な思考力と高い専門能力を身につけることを海外留学の目的とする。

【海外留学のポリシー】

海外留学は、学生が自律的に学び、研究する上での手段である。学生個々人が国際的な視野の中で、何を学び、何を研究するかを熟考し、海外留学の目標と計画を設定した上で渡航することを求める。

【新渡戸カレッジの海外留学制度】

新渡戸カレッジオナーズプログラムの修了には、海外留学の単位取得は必須となる。2024年度にカリキュラム改革が行われ、海外留学の単位取得の対象はさらに拡大した。現在、新渡戸カレッジにおける「海外留学」の単位取得の対象は、本学が開講する交換留学プログラム（2単位）と短期留学プログラム（1単位）の2つのプログラムが中心になるが、それ以外に新渡戸カレッジが指定するオンライン共修科目（2単位）と新渡戸カレッジが単位認定を行う学外で募集・実施される海外留学・研修（1単位）がある。

新渡戸カレッジオナーズプログラムに在籍する学生は、交換留学プログラム（2単位）と短期留学プログラム（1単位）に参加する場合、奨学金が支給される。新渡戸カレッジが指定するオンライン共修科目（2単位）と新渡戸カレッジが単位認定を行う学外で募集・実施される海外留学・研修（1単位）は奨学金支給の対象とならない。

【2024年度海外留学の参加状況】

留学プログラム	渡航先		人数
交換留学	アムステルダム自由大学、ジュネーブ大学、グルノーブル政治学院、レンヌ政治学院、ストラスブール大学、ベルゲン大学、バルセロナ大学、サセックス大学、エディンバラ大学、スウェーデン王立工科大学、ウメオ大学、トゥルク大学、ミュンヘン工科大学、ブレーメン大学、ワルシャワ経済大学、サンディエゴ州立大学、アリゾナ大学、ワシントン大学、オレゴン大学、アルバータ大学、タスマニア大学、ニュー・サウス・ウェールズ大学、香港中文大学		28名
短期留学	国際インターンシップ	シンガポール、マレーシア、ベトナム、タイ、インドネシア、台湾、中国、香港、フィンランド（企業名省略）	19名
	学部専門レベル短期留学	東フィンランド大学、エディンバラ大学、ロバートゴードン大学、シンガポール国立大学、台北医学大学、ザンビア大学	11名
	学外実施の単位認定プログラム	内閣府主催国際社会青年育成事業（ドミニカ共和国） ベルリン自由大学 International Summer and Winter University（ドイツ）	2名
オンライン共修	J-MCP 2024 サマープログラム	①Entrepreneurship for Social Business ②Skills for Society 5.0	3名

12 FD報告

教員対象研修 (FD)：プロジェクトマネジメント実施状況

1. 実施目的

新渡戸カレッジ担当教員に対し、大学院カリキュラムの教育に役立つプロジェクトマネジメントスキルを提供するFDを行なっている。本年度も、高等教育研修センターとの共催により開催した。プレプログラム科目「グローバル実践科目Ⅱ（チーム学習の実践）」で扱っているプロジェクトマネジメント（PM）は、チームでプロジェクトを計画し、実施するために必須であり、「グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）」の授業でも活用されるなど、大学院カリキュラムの授業に関わる全ての教員が知っておくべき知識となっている。そのため、平成29年度からPMを扱ったFDを開催している。授業の質を向上させるため、教員だけではなくTAにも参加を促している。なお、大学院カリキュラムにおける授業と行事を含む全活動が英語で行われることから、FDも英語で実施している。さらに、このFDは他の教員や大学院生にも開放されており、新渡戸カレッジの認知度向上にも役立っている。

2. 実施日時・場所

期間：2024年5月25日（土）13:00～18:00

場所：北海道大学 情報教育会館3階スタジオ型研修室

3. 参加者

参加者数：22名（応募者人数:31名）

授業担当教員：5名（オスピナ アラルコン リカルド（大学院農学研究院）、三浦篤志（大学院理学研究院）、橋本勝文（大学院工学研究院）、横田義史（大学院経済学研究院）、岩崎晋弥（大学院地球環境科学研究院））

学内教員：2名（大学院国際広報メディア・観光学院、大学院教育推進機構）

大学院生：4名（文学院・環境科学院・工学院）

学外：2名（札幌大学・札幌医学技術福祉歯科専門学校）

専門職員：2名

その他：1名（大学院工学研究院）

大学院カリキュラム特任教員：2名

TA：4名

4. 実施内容

講師：King To Chu（プロジェクトマネジメント協会（PMI）認定講師、PMI Japan 所属）

ワークショップ

以下の項目について講師による指導を受けながら、グループワークを行い、講師からフィードバックを受けた。今年度の内容は「アジャイル」アプローチに集中した。内容は下記のとおりである。

1. Introduction to Project Management
2. Review Project Manage Fundamentals (Waterfall Approach of PM)
3. What is an Agile approach?

4. Scrum Process and Product Backlog
5. User Stories
6. Sprint Planning and Daily Standup

5. 実施状況

- 主に「アジャイル」アプローチに焦点を当てるため、去年のFDワークショップ（「ウォーターフォール」アプローチ）の内容を要約し、ワークショップ終了後に参加者が閲覧できるよう追加の学習資料を提供した。
- 新渡戸授業担当教員、特任教員、学内外教員、大学院生、およびTAから成る4～6人のチームを組んで、多数の小さなプロジェクトに取り組んだ。この経験から、実際の授業で問題点をどう説明し、どのような点でつまづくかを理解し、授業の具体的なイメージを形成することができた。
- 道内のさまざまな機関に所属する教員と大学院生で構成される多様なチームは、真に学際的な学習環境で、与えられたプロジェクトへの洞察を深め、貴重な意見を交わした。
- 今年は研修時間を1時間増やしてグループワークの時間を長くし、新しい「アジャイル」アプローチをより深く理解するための時間構成とした。

6. ポスター・画像



OPEN TO FACULTIES, STAFF AND GRADUATE STUDENTS
Total 20 persons
LANGUAGE: English

2024
5.25 SAT
13:00-18:00

LECTURER
KING TO CHU
Project Management Institute (PMI)
Certified Lecturer

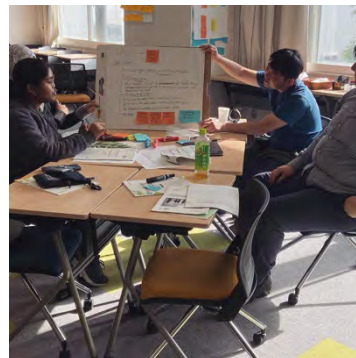
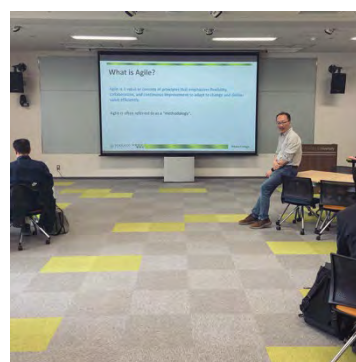
This Faculty Development workshop teaches Project Management principles based on PMBOK (Project Management Body of Knowledge), tailored for education and research. Participants will learn to plan project logistics, estimate accurate timelines, and improve team collaboration.

VENUE
Hokkaido University, Multimedia Education Building,
3rd floor, Studio-type seminar room
Kita 17, Nishi 8, Kita-ku, Sapporo
北海道大学 情報教育会館3階 スタジオ型研修室

REGISTRATION
[QR Code]

CO-HOSTED BY
[Logos: Center for Teaching and Learning, Hoshino College]

PROJECT MANAGEMENT SKILLS IN ACADEMIA



1 3 Nitobe ポートフォリオの活用

新渡戸ポートフォリオ（NPF）とは、学生が自身の学修状況や研究の履歴を記録するオンラインシステムである。新渡戸カレッジにおいて学生が身につける「自分に対する力・他人に対する力・社会に対する力・一般倫理」（学部）および「能力更新力・組織形成力・社会還元力・専門職倫理（3+1の力）」（大学院）の獲得レベルを、NPF上で自己評価し、今後の学修・研究計画に活かすことが可能となる。学部・大学院で身につける4つ能力に加え「活動の記録」（学部）および「専門力」（大学院）を加えた5つの項目は、ペンタグラムで可視化されるため、視覚的に自身の成長を把握することができる。さらに、NPFを包括的に使うことで、学生は研究活動や新渡戸カレッジでの学修状況を記録し、振り返ることができるだけでなく、新渡戸カレッジ教員や授業担当教員、修士研究の指導教員もこの記録を閲覧し、NPF上で適切なアドバイスを与えることができる。

現在のNPFは、大学院カリキュラムの全学生および学部教育コース・学部カリキュラムの「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」受講者を対象に運用している。また、NPFをベースとする全学のポートフォリオシステム構築の準備が現在進められている。今後は全学の教育システムの中でNPFを運用しつつ、学部教育コース・学部カリキュラムの全学生を対象とするなど、さらに改良していく予定である。



図 科目担当教員からみた履修学生の情報

1 4 会議の開催状況

(1) 新渡戸カレッジ運営会議議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(ZOOM 会議) 令和6年5月17日(金)	報告事項1 令和5年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了者数について 報告事項2 令和6年度新渡戸カレッジ入校者数について 報告事項3 令和6年度新渡戸カレッジの現況について 報告事項4 令和6年度新渡戸カレッジフェロー・メンターについて 報告事項5 新渡戸カレッジ評価委員会報告について (1) 令和4年度新渡戸カレッジ修了生等アンケート結果報告について (2) 令和5年度新渡戸カレッジ評価報告について 報告事項6 令和6年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM 会議) 令和6年9月27日(金)	報告事項1 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム修了生の決定について 報告事項2 新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラム入校生の決定について 報告事項3 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム入校生の決定について 報告事項4 新渡戸カレッジ入校式について
第3回(ZOOM 会議) 令和7年3月4日(火)	議題1 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了予定者及び総代候補者について 議題2 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム修了生の決定について 議題3 北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部改正について 議題4 新渡戸カレッジにおける入校の方針(アドミッションポリシー)、教育実施の方針(カリキュラムポリシー)及び修了認定・称号等授与の方針(ディプロマポリシー)の一部改正について 報告事項1 新渡戸カレッジ副校長等の指名について 報告事項2 令和6年度新渡戸カレッジ修了式について 報告事項3 令和6年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について 報告事項4 令和7年度新渡戸カレッジが開講する大学院授業科目について
意見交換会(ZOOM 会議) 令和7年3月4日(火)	内容 新渡戸カレッジの中長期的なビジョンについて

(2) 学部カリキュラム教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(ZOOM 会議) 令和6年5月13日(月)	報告事項1 令和5年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了者数について 報告事項2 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース入校審査の結果について 報告事項3 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース在籍学生数について 報告事項4 令和6年度新渡戸カレッジフェローについて 報告事項5 令和6年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について 報告事項6 令和6年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM 会議) 令和6年9月11日(水)	議題1 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラム入校生の決定について 報告事項1 令和6年度新渡戸カレッジ入校式について 報告事項2 令和6年度新渡戸カレッジ行事予定表

開催年月日	議 題 等	
第3回(ZOOM 会議) 令和7年2月21日(金)	議題1	新渡戸カレッジにおける入校の方針(アドミッションポリシー)、教育実施の方針(カリキュラムポリシー)及び修了認定・称号等授与の方針(ディプロマポリシー)の一部改正について
	報告事項1	令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム(学部教育コース・学部カリキュラム)の在籍状況について
	報告事項2	令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム(学部教育コース)修了式について
	報告事項3	令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム(学部教育コース)修了判定について
	報告事項4	令和7年度新渡戸カレッジ行事予定について

(3) 大学院カリキュラム教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回(ZOOM 会議) 令和6年5月8日(水)	報告事項1	令和6年度新渡戸カレッジ(大学院カリキュラム)運営体制について
	報告事項2	令和6年度春入校 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム入校者について
	報告事項3	令和6年度新渡戸カレッジメンターの就任について
	報告事項4	令和5年度新渡戸カレッジ(大学院教育コース)の実施状況について
	報告事項5	令和6年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM 会議) 令和6年9月9日(月)	議題1	令和6年度オナーズプログラムの修了判定(9月修了)について
	報告事項1	令和6年度大学院カリキュラム(前期)及びFDの実施状況について
	報告事項2	令和6年度秋入校学生募集及び入校者選抜の実施方法について
	報告事項3	令和6年度新渡戸カレッジ修了式(9月修了)及び入校式(秋入校)について
第3回(ZOOM 会議) 令和7年2月28日(金)	報告事項4	令和7年度新渡戸カレッジ授業科目の協力依頼について
	議題1	令和6年度 オナーズプログラム大学院カリキュラムの修了判定(3月修了)について
	議題2	新渡戸カレッジにおける入校の方針(アドミッションポリシー)、教育実施の方針(カリキュラムポリシー)及び修了認定・称号等授与の方針(ディプロマポリシー)の一部改正について
	議題3	令和7年度 新渡戸カレッジ大学院カリキュラム等の授業科目について
	議題4	令和7年度 春入校学生募集及び入校者選考の実施方法について
	報告事項1	令和6年度 大学院カリキュラム(後期)の実施状況について
	報告事項2	令和6年度 新渡戸カレッジ修了式(3月修了)及び令和7年度新渡戸カレッジ入校式(春入校)について
	報告事項3	令和7年度 新渡戸カレッジ行事予定について

(4) 広報・システム専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回(ZOOM 会議) 令和7年2月14日(金) (拡大委員会)	報告事項1	新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会の各部会について
	報告事項2	各部会の活動報告について

(5) 奨学金支援専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回(持ち回り) 令和7年2月6-17日	報告事項	令和6年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について

(6) 評価委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回(ZOOM 会議) 令和6年7月5日(金)	協議事項1	評価委員会委員長の選出について
	協議事項2	令和6-7年度新渡戸カレッジ評価委員会における検討事項について(案)
	協議事項2	令和6-7年度の新渡戸カレッジ評価委員会について

(7) 執行部会協議事項等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回 令和6年4月12日(金)	協議事項1	令和6年度第1回新渡戸カレッジ運営会議について
	報告事項1	令和6年度新渡戸カレッジ運営体制について
	報告事項2	令和6年度第1回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について
	報告事項3	令和6年度新渡戸カレッジ会議・行事等予定について
	報告事項4	令和5年度新渡戸カレッジ各種会議審議事項等について
第2回 令和6年6月13日(木)	協議事項1	令和6年度第1回新渡戸カレッジ評価委員会について
	協議事項2	令和6年度新渡戸カレッジ入校式の検討事項について
第3回 令和6年8月2日(金)	協議事項1	新渡戸カレッジオーナーズプログラム修了アンケート(案)について
第4回 令和6年9月6日(金)	協議事項1	令和6年度第2回運営会議・意見交換会の議題等について
	協議事項2	新渡戸カレッジ将来構想検討WGについて
第5回 令和6年10月4日(金)	協議事項1	新渡戸カレッジ将来構想検討WGについて
	報告事項1	令和6年度大学ビジョン推進経費について
第6回 令和7年1月10日(金)	協議事項1	新渡戸カレッジにおける入校の方針(アドミッションポリシー)、教育実施の方針(カリキュラムポリシー)及び修了認定・称号等授与の方針(ディプロマポリシー)の一部改正について
	協議事項2	令和7年度 新渡戸カレッジ諸会議開催予定(案)について
	協議事項3	令和7年度 高等教育推進機構(新渡戸カレッジ教育研究部)兼務教員候補者の推薦について
	その他1	令和7年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(振り返り会)について
第7回 令和7年2月7日(金)	協議事項1	令和6年度第3回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会の議題等について
	協議事項2	北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部改正(案)について
	報告事項1	令和7年度新渡戸カレッジ運営体制について

(8) 新渡戸カレッジ将来構想検討ワーキンググループ検討事項等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回 令和6年7月23日(火)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第2回 令和6年8月26日(月)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第3回 令和6年9月13日(金)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第4回 令和6年9月26日(木)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第5回 令和6年10月18日(金)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第6回 令和6年11月29日(金)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第7回 令和6年12月9日(月)	協議事項	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について

開催年月日	議 題 等
第 8 回 令和 7 年 1 月 10 日(金)	協議事項 新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第 9 回 令和 7 年 1 月 20 日(月)	協議事項 新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第 10 回 令和 7 年 2 月 3 日(月)	協議事項 新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第 11 回 令和 7 年 2 月 17 日(月)	協議事項 新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
第 12 回 令和 7 年 3 月 17 日(月)	協議事項 新渡戸カレッジの中長期的将来構想について

1 5 広報資料一覧

1 共通

- (1) 新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌「ACROSS」(No.1～No.5)
- (2) 新渡戸カレッジ活動報告書(2022年度～2023年度)

2 学部カリキュラム

- (1) 新渡戸カレッジパンフレット
- (2) 新渡戸カレッジ生募集用チラシ

3 大学院カリキュラム

- (1) 新渡戸カレッジパンフレット
- (2) 新渡戸カレッジ生募集用チラシ

4 報告書

- (1) リサーチインターン報告書 2018年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (2) リサーチインターン報告書 2017年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (3) Reports of Reserch Intern, Feb.-Mar.2017 OIST
- (4) リサーチインターン報告書 2016年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (5) Reports of Reserch Intern, Feb.-Mar.2016 OIST
- (6) 2016年度国際FDワークショップ
- (7) 2015年度国際FDワークショップ
- (8) 2014年度国際FDワークショップ
- (9) 国際FDワークショップの資料はこちら(北海道学術成果コレクション)
- (10) 2016年度ボランティア一日体験実習報告書
- (11) 2016年度ボランティア報告書
- (12) 2015年度ボランティア報告書
- (13) 2014年度ボランティア報告書

5 その他

- (1) 「新渡戸カレッジ」の設立について
※ 出典:『北海道大学 高等教育推進機構ニュースレター No.93』
- (2) 多田フェローゼミの記録(2019年度)

6 参考図書

- (1) グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦Ⅱ(玉城 英彦/帰山 雅秀/弐 和順(編著))
- (2) 新渡戸稲造 日本初の国際連盟職員(玉城 英彦著)
- (3) グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦(玉城 英彦/帰山 雅秀/弐 和順(編著))
- (4) 新渡戸稲造に学ぶ 武士道・国際人・グローバル化(弐 和順・佐々木 啓(編著)、ミシェル・ラフェイ、権 錫永、山本 博文、トレント・マクシ、白木沢 旭児、日野 峰子)



Hokkaido University
Nitobe College

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学学務部教育推進課

新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当

URL:<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp>

Email:nitobe-college@academic.hokudai.ac.jp

2025 年6月発行